

公立小学校の外国語活動に関する現状調査

《教育委員会対象》

調査結果報告

平成 24 年 5 月

財団法人 日本英語検定協会

英語教育研究センター

■ 調査実施概要 および 回答者の属性

■ 質問項目

- 問 1. 外国語活動に関する教員研修について
- 問 2-1. 今年度の教員研修の内容について
- 問 2-2. 今年度の教員研修の教材について
- 問 2-3. 今年度の教員研修の指導者について
- 問 2-4. 教員研修を企画・運営する際の課題について
- 問 3-1. 管轄下の小学校での児童への評価について
- 問 3-2. 好ましい評価について
- 問 3-3. 評価を行わない理由について
- 問 3-4. 成果を知る観点について
- 問 4. 小学生または児童向けの外部制作のテストについて
- 問 5. 外国語活動における問題や課題について
- 問 6. 年間 35 時間の外国語活動を実施するための環境面について
- 問 7. 年間 35 時間の外国語活動導入について
- 問 8. 外国語活動の必修化に向け、管轄下の中学校に対して行っていることについて
- 問 9. 外国語活動に関して、力を入れている（入れたい）ことについて
- 問 10. 小学校への外国語活動の導入による影響と効果について

調査実施概要

1. 調査テーマ

各教育委員会管轄下の公立小学校における外国語活動に関する現状調査

2. 調査対象

全国の教育委員会(都道府県市町村及び東京特別区)

3. 調査目的

平成23年度より、小学校高学年に外国語活動が導入されたが、管轄下の小学校の導入受入の状況、小学校及び中学校に対する指導内容、外国語活動導入の影響など、現状を明らかにする。

さらに、前年度実施の同様の調査結果と比較する。

4. 調査期間

平成23年9月から平成23年10月

5. 調査方法

送付、回収ともに郵送によるアンケート方式

6. 送付数・回収結果

調査対象	送付数	回収数	回収率
都道府県市町村教育委員会	1,721件	564件	32.8%

(注) 単位表記について

今回の報告書から、パーセント表示した割合の変化を表す数値(差)の単位として「ポイント」を使用することとしました。この単位の正式名称は「パーセントポイント」または「パーセンテージポイント」といい、「ポイント」はその略称で、「パーセントで表された2つの数値の差」を示します。本報告書では前年度比較をする場合などに、%値の差の単位として「ポイント」表記をしています。

< 回答者の属性 > (N=564)

◎都道府県別回答教育委員会数

都道府県	回答数
北海道	59
青森県	14
岩手県	19
宮城県	9
秋田県	13
山形県	9
福島県	15
茨城県	14
栃木県	9
群馬県	11
埼玉県	24
千葉県	22
東京都	11
神奈川県	15
新潟県	8
富山県	4

都道府県	回答数
石川県	4
福井県	5
山梨県	5
長野県	25
岐阜県	16
静岡県	7
愛知県	16
三重県	13
滋賀県	8
京都府	6
大阪府	20
兵庫県	13
奈良県	11
和歌山県	9
鳥取県	9
島根県	10

都道府県	回答数
岡山県	9
広島県	2
山口県	5
徳島県	4
香川県	7
愛媛県	8
高知県	11
福岡県	20
佐賀県	11
長崎県	4
熊本県	7
大分県	6
宮崎県	7
鹿児島県	11
沖縄県	14
不明	5

◎回答教育委員会の種別回答数

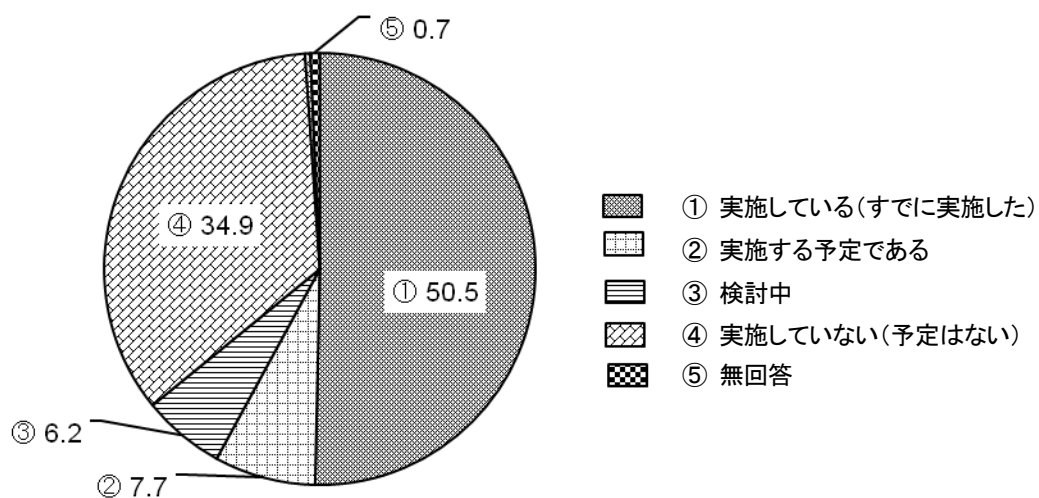
種 別	回答数
都道府県	12
市	241
区	6
町	248
村	48
不明・未記入	9

問1 今年度、外国語活動に関する教員研修は実施していますか。あてはまるもの1つを選んでください。

小学校の外国語活動に関する教員研修については、「実施している」がほぼ半数の50.5%であり、「実施する予定である」(7.7%)を入れると、実施または実施を予定しているところが6割弱となった。前年度の同様の調査における66.6%よりも下がっている。一方「実施していない」は34.9%で、前年度の24.8%から約10ポイントの増となった。

前年度は外国語活動の本格導入直前にあたり、研修が盛んに行われたことがわかる。導入1年目の今年度も研修の機運は続いているとみてよいだろう。

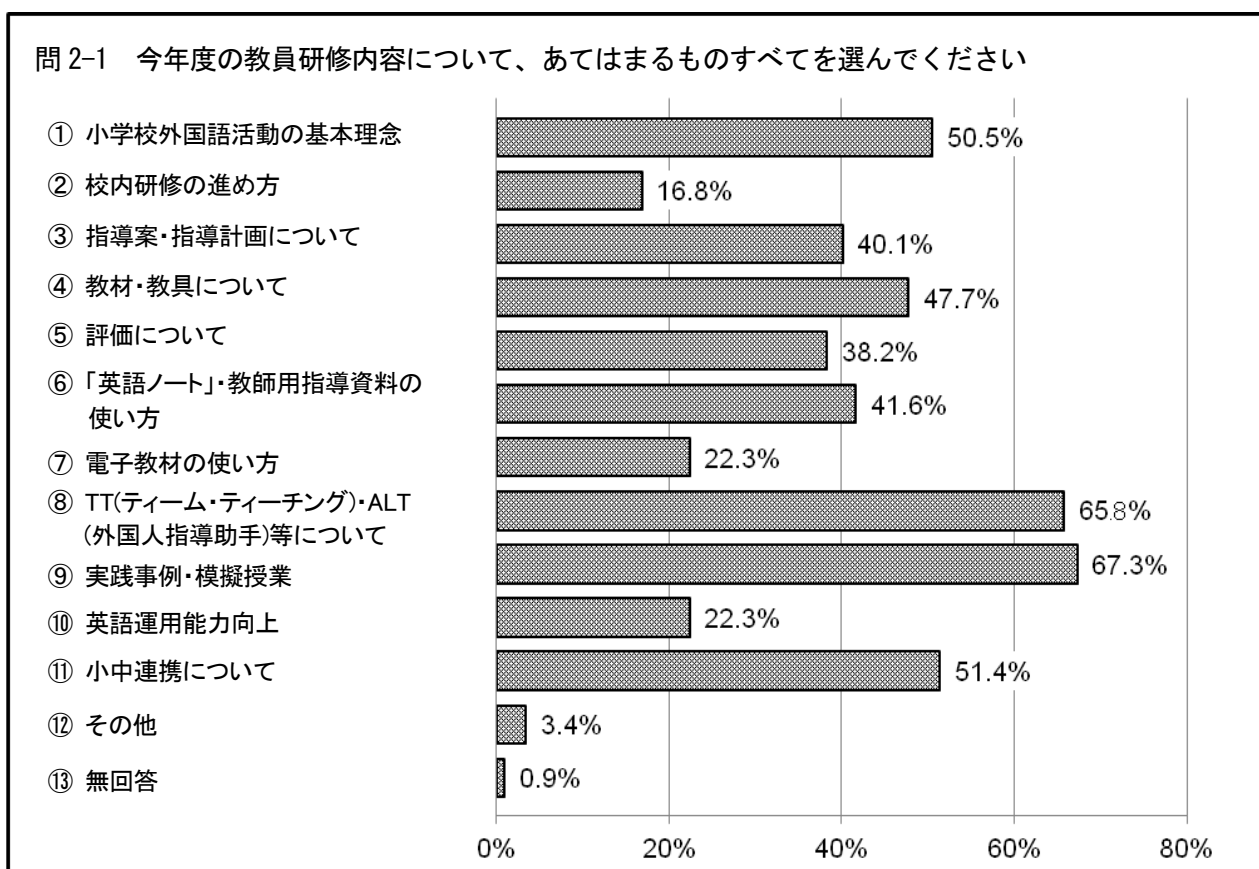
問1 今年度、外国語活動に関する教員研修は実施していますか



問2-1 今年度の教員研修の内容について、あてはまるものすべてを選んでください。

教員研修内容で全体の65%以上が実施したのが「実践事例・模擬授業」(67.3%)、「TT(ティーム・ティーチング)・ALT(外国語指導助手)等について」(65.8%)であり、続いて「小中連携について」(51.4%)「小学校外国語活動の基本理念」(50.5%)、「教材・教具について」(47.7%)、「『英語ノート』・教師用指導資料の使い方」(41.6%)、「指導案・指導計画について」(40.1%)、「評価について」(38.2%)の順に多かった。前年度に比べて内容が分散化しており、「実践事例・模擬授業」「小学校外国語活動の基本理念」「『英語ノート』・教師用指導資料の使い方」などの割合が大きくダウンしている。そのなかで、「TT(ティーム・ティーチング)・ALT(外国語指導助手)等について」と「評価について」の割合が高くなったのが目立った。

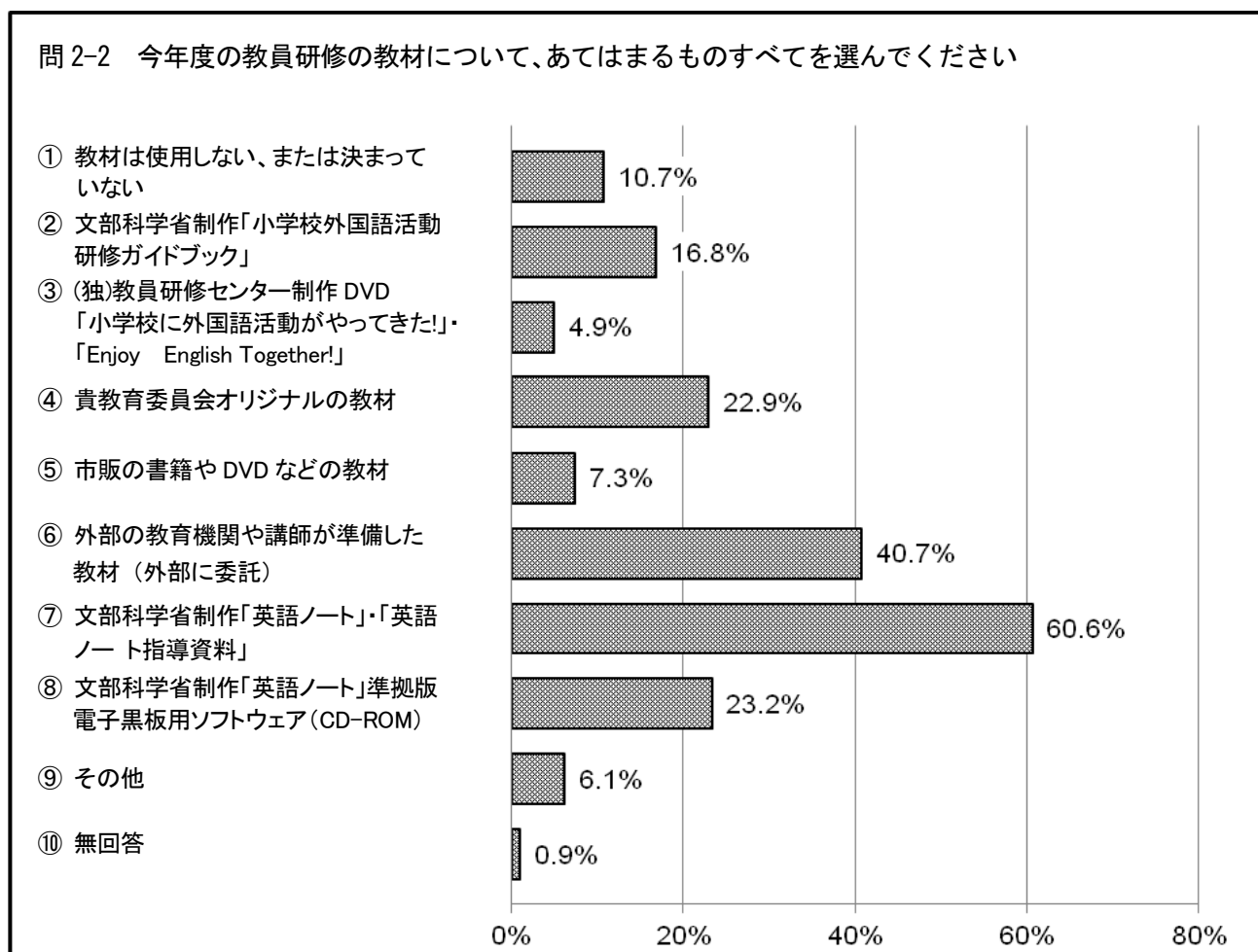
本設問は複数回答可であり、1教育委員会あたりの回答数は4.7項目(前年度4.7)であった。



問 2-2 今年度の教員研修の教材について、あてはまるものすべてを選んでください。

研修の教材でもっとも多かったのは、前年度同様「文部科学省制作『英語ノート』・『英語ノート指導資料』」(60.6%)で6割を超えている。以下「外部の教育機関や講師が準備した教材(外部に委託)」(40.7%)、「文部科学省制作『英語ノート』準拠版電子黒板用ソフトウェア(CD-ROM)」(23.2%)、「教育委員会オリジナル教材」(22.9%)、「文部科学省制作『小学校外国語活動研修ガイドブック』」(16.8%)と続いている。前年度に比べて教育委員会によるオリジナル教材が増えているのが目立った。

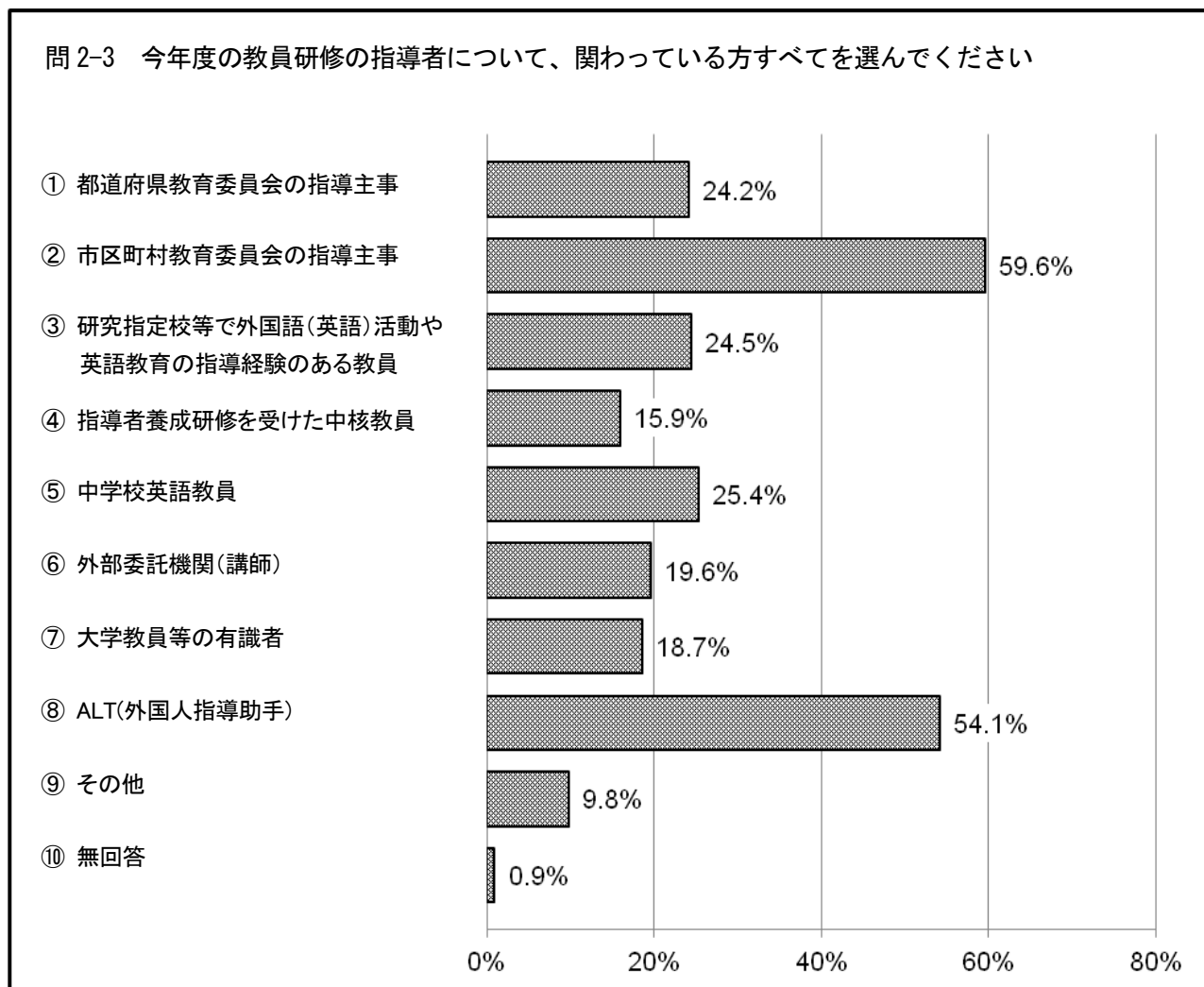
本設問は複数回答可であり、1教育委員会あたりの回答数は平均2.0項目(前年度2.4)であった。



問 2-3 今年度の教員研修の指導者について、関わっている方すべてを選んでください。

教員研修の指導者でもっとも多いのは、「市区町村教育委員会の指導主事」で 59.6%、「ALT (外国語指導助手)」(54.1%)も 5 割を超えておりこの上位 2 項目が目立っている。この傾向は前年度と同様である。以下、「中学校英語教員」(25.4%)、「研究指定校等で外国語(英語)活動や英語教育の指導経験のある教員」(24.5%)「都道府県教育委員会の指導主事」(24.2%)の順だった。

本設問は複数回答可であり、1 教育委員会あたりの回答数は 2.5 項目(前年度 2.3)であった。



問 2-4 教員研修を企画・運営する際の課題は何ですか。あてはまるものすべてを選び、優先度が高い順から 1, 2, 3...というように < >に番号を書いてください。

この質問では、優先度のもっとも高いものを 8 得点、以下 7, 6, 5, 4, 3, 2, 1 得点として計算したものを合算して総得点とした。

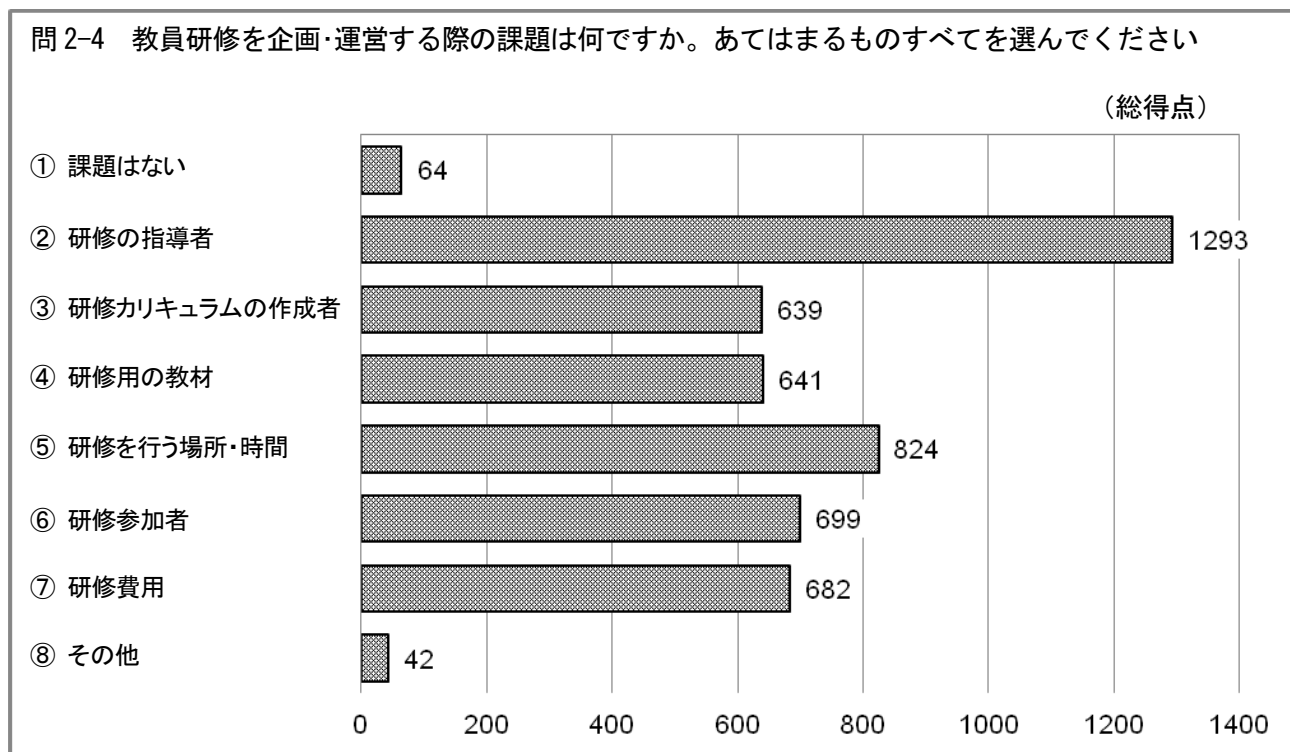
この結果、研修を企画・運営する際の課題については、圧倒的に「研修の指導者」(1,293 得点)が高く、この項目の優先順位を 1 位とした教育委員会も 99 ともっとも多くなっている。続いて「研修を行う場所・時間」(824 得点)が 2 番目に多く、以下「研修参加者」(699 得点)、「研修費用」(682 得点)、「研修用の教材」(641 得点)、「研修カリキュラムの作成者」(639 得点)と同レベルの得点で続いている。

前年度は上位の「研修の指導者」と「研修を行う場所・時間」の差は小さかったが、今回は大きな差となった。これは研修の企画・運営に関わる要因のうち、ハード面の整備は進んだものの、ソフト面(指導者不足等)が立ち遅れていることがうかがえる。

なお、「研修の指導者」を課題に挙げた教育委員会は全体の 58.4%で、続いて「研修を行う場所・時間」が 42.2%となっており、「研修参加者」「研修費用」「研修用の教材」「研修カリキュラムの作成者」を挙げたのは 30% だった。

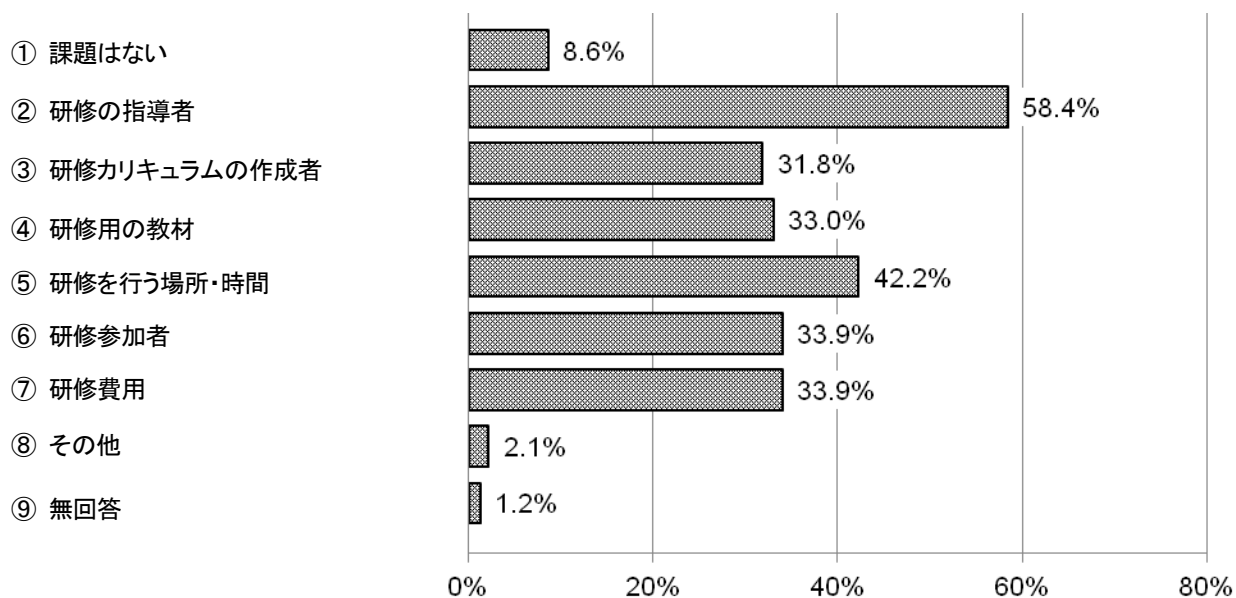
選 択 肢	総得点	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	<6>	<7>	<8>
① 課題はない	64	8	0	0	0	0	0	0	0
② 研修の指導者	1,293	99	46	29	1	0	0	0	0
③ 研修カリキュラムの作成者	639	22	42	21	7	2	0	0	0
④ 研修用の教材	641	20	32	28	11	7	2	0	0
⑤ 研修を行う場所・時間	824	43	41	26	3	4	2	0	0
⑥ 研修参加者	699	38	28	23	9	4	0	0	0
⑦ 研修費用	682	33	34	17	11	2	5	0	0
⑧ その他《 ⇒記述回答は p45 》	42	3	1	1	1	0	0	0	0

※ 優先度順に得点を付け集計 (<1>=8 得点、<2>=7 得点 ~ <8>=1 得点)



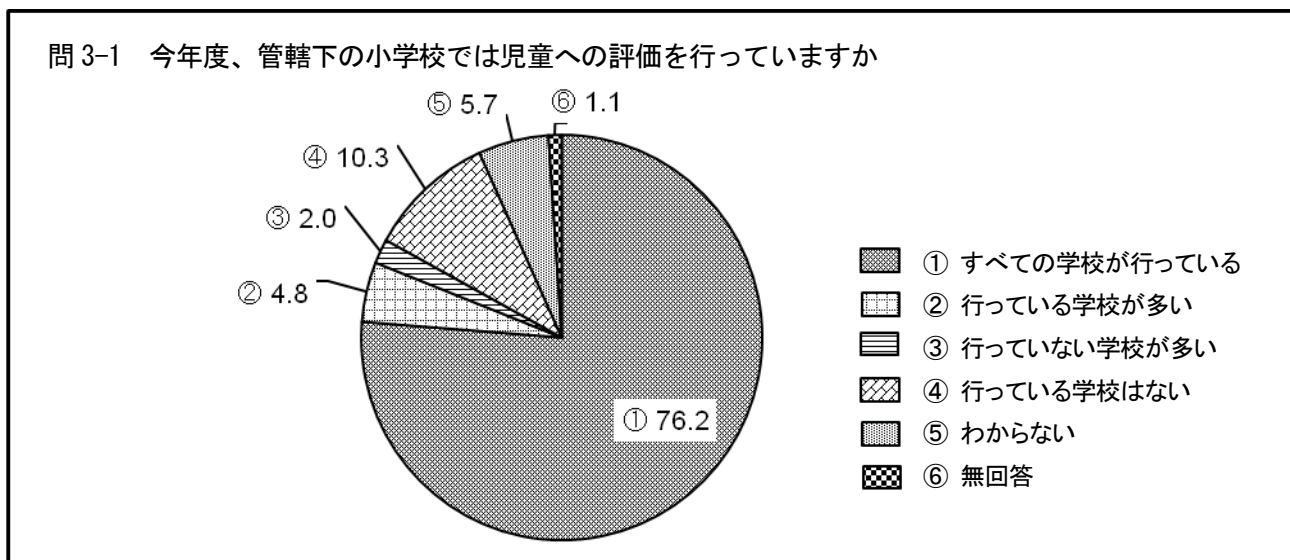
選 択 肢	回答数	N=564
① 課題はない	28	8.6%
② 研修の指導者	191	58.4%
③ 研修カリキュラムの作成者	104	31.8%
④ 研修用の教材	108	33.0%
⑤ 研修を行う場所・時間	138	42.2%
⑥ 研修参加者	111	33.9%
⑦ 研修費用	111	33.9%
⑧ その他 《 ⇒記述回答は p45 》	7	2.1%
⑨ 無回答	4	1.2%

問 2-4 教員研修を企画・運営する際の課題は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください



問3-1 今年度、管轄下の小学校では児童への評価を行っていますか。あてはまるもの1つを選んでください。

児童への評価は、「すべての学校が行っている」が76.2%でもっとも多く、前年度より約20ポイント高くなった。これに伴って「行っている学校が多い」(4.8%)は8ポイント、「行っている学校はない」(10.3%)も約1ポイント低下した。児童への評価が学校現場にほぼ定着したとみてよいだろう。



問3-2 問3-1で1か2を選んだ方は、どんな評価が好ましいと思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

どんな評価が好ましいかについては、「授業内での観察・記録」が99.3%と圧倒的に多かった。他に半数以上が挙げた項目は「児童への意識調査(活動は楽しいか、等)」(70.2%)、「児童の自己評価(どこができたか、等)」(67.0%)で、いずれも65%を超えた。前年度との比較では「児童への意識調査(活動は楽しいか、等)」は割合が低くなったが、他の2項目は高くなっている。

以下、半数には達しなかったが、「ワークシートやノートの記入結果」(47.5%)、「発言の内容や回数のチェック」(27.4%)と続いている。「授業内で行う小テストの結果」(3.3%)、「定期テスト(学期に1回、等)の結果」(1.3%)は前年度同様、低い数値になっており、具体的なテストによる評価は好ましいとは受けとめられていない実態が反映されている。

本設問は複数回答可であり、1教育委員会あたりの回答数は、3.2項目(前年度2.9)であった。

選 択 肢	回答数	N=457
① 授業内での観察・記録	454	99.3%
② 児童への意識調査(活動は楽しいか、等)	321	70.2%
③ 発言の内容や回数のチェック	125	27.4%
④ ワークシートやノートの記入結果	217	47.5%
⑤ 児童の自己評価(どこができたか、等)	306	67.0%
⑥ 授業内で行う小テストの結果	15	3.3%
⑦ 定期テスト(学期に1回、等)の結果	6	1.3%
⑧ その他《⇒記述回答はp45》	5	1.1%
⑨ 無回答	0	0.0%

問3-3 問3-1で3か4を選んだ方は、その理由についてあてはまるものすべてを選んでください。

問3-1で3か4を選んだ割合は前年度の約18%から約12%と低くなったため、本設問への回答数は少なくなりました。児童への評価を行っていない学校の理由としてもっとも多かったのは「適切な評価内容・基準がわからない」(58.0%)で、前年度もっとも多かった「適切な評価方法がわからない」(36.2%)と逆転した。「児童のモチベーションが下がるのではと不安」(11.6%)は前年度よりも割合がやや高くなった。

本設問は複数回答可であり、1教育委員会あたりの回答数は1.7項目(前年度1.3)であった。

選 択 肢	回答数	N=69
① 適切な評価内容・基準がわからない	40	58.0%
② 適切な評価方法がわからない	25	36.2%
③ 児童のモチベーションが下がるのではと不安	8	11.6%
④ その他《⇒記述回答はp45》	12	17.4%
⑤ 無回答	20	29.0%

問3-4 外国語活動の成果をどのような観点で知りたいと思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

外国語活動の成果を知りたい観点として圧倒的に多かったのが「学年が進級するに連れて、同一児童にどのような変化が見られるか」(81.7%)で、8割を超えた。続いて3割台の「前年(過去)と今年の同一学年の児童を比較して、どのような差が見られるか」(37.1%)となり、次に2割台の「全国や他の市区町村と比較して、児童の理解面にどのような違いや特徴が見られるか」(28.0%)、「管轄下の小学校間で、児童の理解面にどのような違いや特徴が見られるか」(23.8%)の順だった。

本設問は複数回答可であり、1教育委員会あたりの回答数は、2.1項目であった。

選 択 肢	回答数	N=564
① 学年が進級するに連れて、同一児童にどのような変化が見られるか(例:5年終了時と6年終了時を比較)	461	81.7%
② 前年(過去)と今年の同一学年の児童を比較して、どのような差が見られるか(例:5年生同士を比較)	209	37.1%
③ 管轄下の小学校間で、児童の理解面にどのような違いや特徴が見られるか(例:A小学校とB小学校を比較)	134	23.8%
④ 全国や他の市区町村と比較して、児童の理解面にどのような違いや特徴が見られるか	158	28.0%
⑤ 他の地域の研究開発校、特区の小学校と比較して、どのような違いや特徴が見られるか	69	12.2%
⑥ その他《⇒記述回答はp45》	20	3.6%
⑦ 無回答	52	9.2%

問4 小学生または児童向けの外部制作のテストで、ご存知のものすべてを選んでください。

外部制作テストについては、「児童英検（日本英語検定協会主催）」を知っている数値が、4分の3にあたる75.0%を占め、前年度の約71%を上回った。次に、「国連英検ジュニア・テスト」（17.7%）が続いている。

本設問への回答がなかった教育委員会は全体の23.4%で、前年度の28.1%を下回った。なお、複数回答可であり、1教育委員会あたりの平均回答項目数は前年度と同じ1.4項目であった。

選 択 肢	回答数	N=564
① 児童英検(日本英語検定協会主催)	423	75.0%
② 国連英検ジュニア・テスト	100	17.7%
③ JAPEC 児童英検	41	7.3%
④ ケンブリッジ・ヤングラーナーズ	19	3.4%
⑤ GTEC for STUDENTS Junior	25	4.4%
⑥ その他 《 ⇒記述回答は p46 》	2	0.4%
⑦ 無回答	132	23.4%

問5 現在、外国語活動において管轄下の小学校で問題や課題であると感じていることはありますか。

下記の中であてはまるものがある場合には5つまで選び、優先度が高い順から 1, 2, 3…というようにく>に番号を書いてください。

この質問では、優先度の最も高いものを5得点、以下4, 3, 2, 1得点として計算したものを合算して総得点とした。

管轄下の小学校の外国語活動における問題や課題については、「指導者(担当教員)の質・技術」(1,341得点)がもっとも多く、続いて「指導内容・方法」(1,133得点)となっている。この順序は前年度と同じだが、この2項目の差が小さくなっており、導入後の現場では指導内容・方法の課題のウエイトが高まっているようだ。以下、「中学校との連携」(836得点)、「評価内容・方法」(832得点)、「教員研修」(729得点)、「高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い」(471得点)となっており、前年度と傾向は似ているが、「中学校との連携」と「評価内容・方法」の順位が入れ変わっており、中学校との連携がより意識されるようになったようだ。

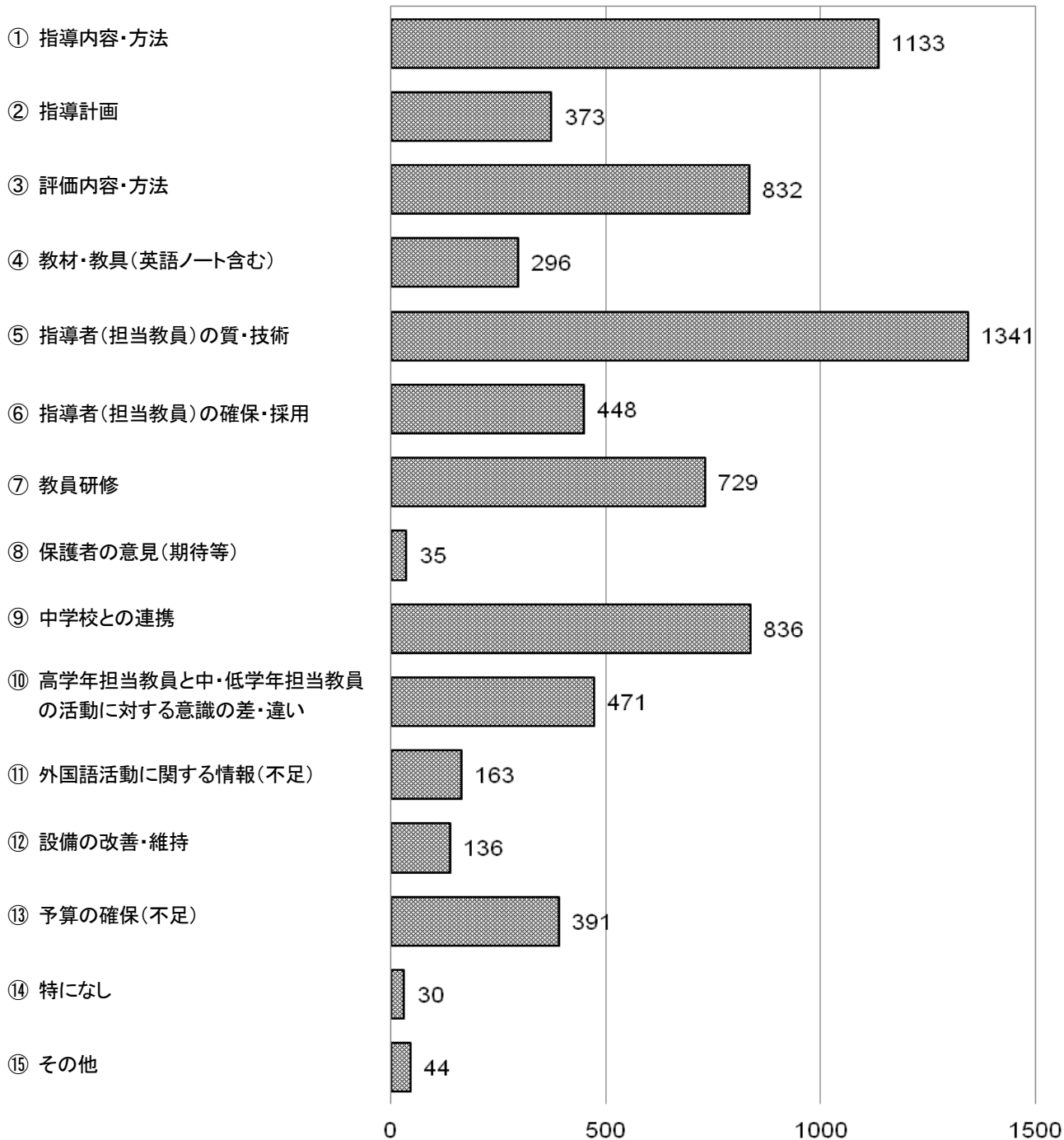
なお、もっとも多かった「指導者(担当教員)の質・技術」を挙げた教育委員会は全体の64.5%で、「指導内容・方法」「中学校との連携」についても半数以上の教育委員会が課題として挙げている。

選 択 肢	総得点	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
① 指導内容・方法	1133	101	87	47	57	25
② 指導計画	373	17	26	40	24	16
③ 評価内容・方法	832	36	79	72	44	32
④ 教材・教具(英語ノート含む)	296	4	26	31	26	27
⑤ 指導者(担当教員)の質・技術	1341	132	101	54	45	25
⑥ 指導者(担当教員)の確保・採用	448	42	33	19	19	11
⑦ 教員研修	729	45	49	60	38	52
⑧ 保護者の意見(期待等)	35	3	0	3	2	7
⑨ 中学校との連携	836	60	45	56	62	64
⑩ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い	471	30	30	36	32	29
⑪ 外国語活動に関する情報(不足)	163	7	9	14	17	16
⑫ 設備の改善・維持	136	4	11	10	15	12
⑬ 予算の確保(不足)	391	37	14	28	20	26
⑭ 特になし	30	6	0	0	0	0
⑮ その他《 ⇒記述回答はp46 》	44	5	1	4	1	1

※優先度順に得点を付け集計 (〈1〉=5得点、〈2〉=4得点 ~ 〈5〉=1得点)

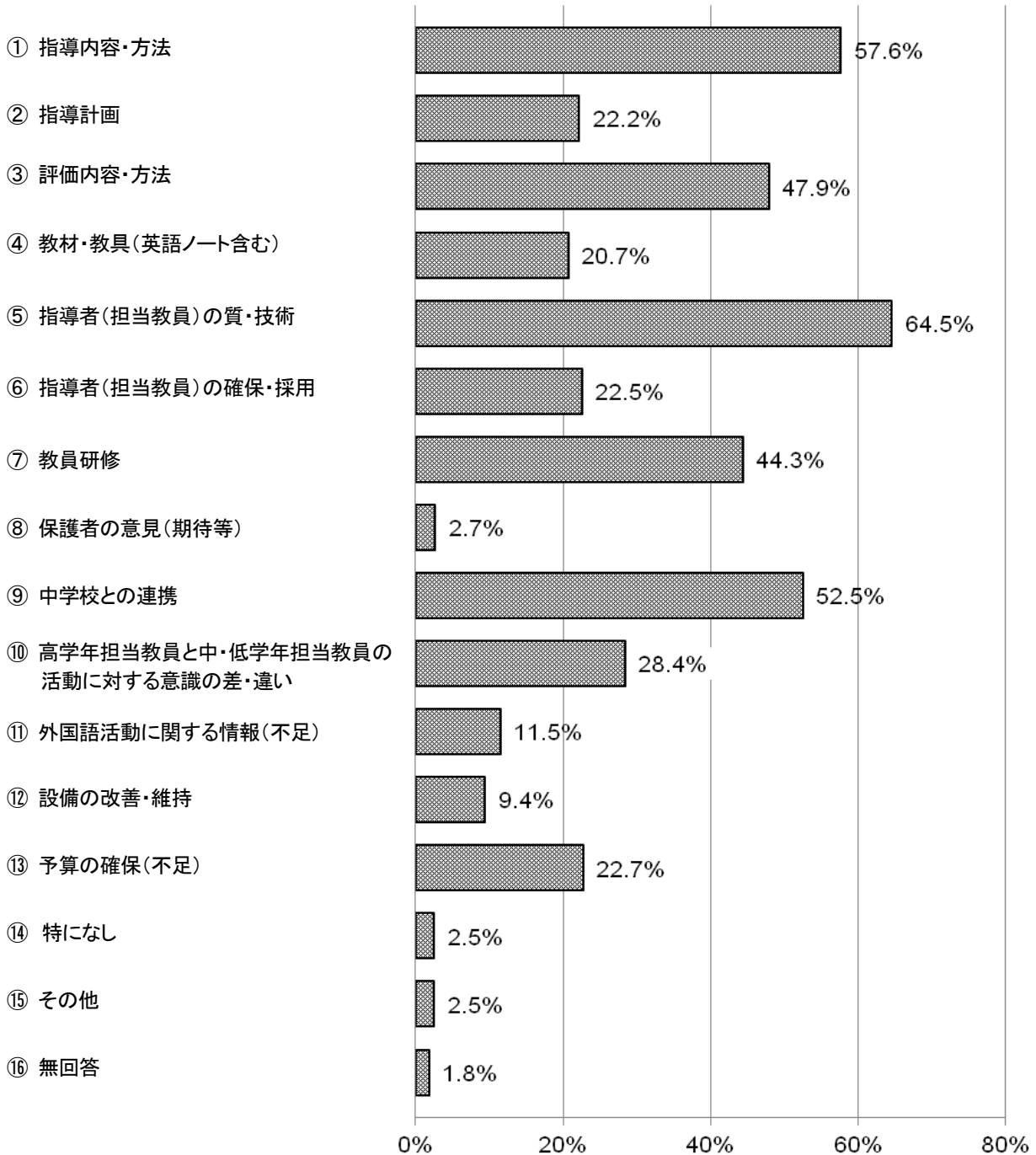
問5 現在、外国語活動において管轄下の小学校で問題や課題であると感じていることはありますか。
下記の中であてはまるものがある場合には5つまで選んでください

(総得点)



選 択 肢	回答数	N=564
① 指導内容・方法	325	57.6%
② 指導計画	125	22.2%
③ 評価内容・方法	270	47.9%
④ 教材・教具(英語ノート含む)	117	20.7%
⑤ 指導者(担当教員)の質・技術	364	64.5%
⑥ 指導者(担当教員)の確保・採用	127	22.5%
⑦ 教員研修	250	44.3%
⑧ 保護者の意見(期待等)	15	2.7%
⑨ 中学校との連携	296	52.5%
⑩ 高学年担当教員と中・低学年担当教員の活動に対する意識の差・違い	160	28.4%
⑪ 外国語活動に関する情報(不足)	65	11.5%
⑫ 設備の改善・維持	53	9.4%
⑬ 予算の確保(不足)	128	22.7%
⑭ 特になし	14	2.5%
⑮ その他《⇒記述回答は p46》	14	2.5%
⑯ 無回答	10	1.8%

問5 現在、外国語活動において管轄下の小学校で問題や課題であると感じていることはありますか。
下記の中であてはまるものがある場合には5つまで選んでください



問6 管轄下の小学校全体で考えた場合、年間35時間の外国語活動を実施するにあたり、以下の面で環境は整っていると思いますか。それぞれについてあてはまる番号(1から5の中で)1つを選んでください。

問6で取り上げたのは21項目で、それぞれについて1~5の5つの選択肢(「十分に整っている」「ある程度整っている」「あまり整っていない」「まったく整っていない」「どれもあてはまらない」)から1つ選ぶことで評価をしてもらった。

21項目の内容は次の通り。

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1. 外国語活動担当教員の配置 | 13. 校内研究会・研修会の実施体制 |
| 2. 過去に外国語活動を指導した経験のある教員 | 14. 5・6年生と1~4年生の担当教員の情報交換体制 |
| 3. 年間指導計画を作成できる教員 | 15. 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制 |
| 4. 校内研修を企画・運営できる教員 | 16. 進学先中学校との情報交換の体制 |
| 5. ALTの小学校訪問頻度 | 17. 学校外での研修会・勉強会などの情報 |
| 6. 外国語活動実施に対する教員の積極性 | 18. 学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制 |
| 7. 英語の文法・表現・発音等について相談できる人 | 19. 教師が使用する教具を購入する費用 |
| 8. 外国語活動の指導法について相談できる人 | 20. 教師が研修に参加する費用 |
| 9. 年間指導計画・指導案 | 21. ALTなどの指導者に関する費用 |
| 10. 児童が外国語活動で使用する教材 | |
| 11. 教師が外国語活動で使用する教具 | |
| 12. 外国語活動を行うための教室 | |

ここではまず、外国語活動実施に際しての環境整備状況がよい項目の順にその数値をまとめ、分析してみる。

①「十分に整っている」「ある程度整っている」の合計が80%をこえるもの

「ALTの小学校訪問頻度」(88.5%)

「ALTなどの指導者に関する費用」(83.0%)

「年間指導計画・指導案」(80.0%)

「年間指導計画・指導案」は前年度よりも10ポイント高く、他の2つの項目は前年度より3ポイント程度高くなっている。

②「十分に整っている」「ある程度整っている」の合計が70%をこえるもの

「児童が外国語活動で使用する教材」(77.8%)

「教師が外国語活動で使用する教具」(75.5%)

「外国語活動実施に対する教員の積極性」(72.7%)

3項目とも前年度は60%台であった。特に、「外国語活動実施に対する教員の積極性」以外の2項目は10ポイント前後の伸びを見せている。

③「十分に整っている」「ある程度整っている」の合計が60%をこえるもの

「年間指導計画を作成できる教員」(63.5%)

「外国語活動を行うための教室」(62.8%)

「外国語活動担当教員の配置」(62.2%)

いずれも前年度よりも6ポイント以上の伸びとなっているが、特に「外国語活動担当教員の配置」は約15ポイント増と目立って高くなっている。

④「十分に整っている」「ある程度整っている」の合計が50%をこえるもの

- 「進学先中学校との情報交換の体制」(57.8%)
- 「同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制」(53.5%)
- 「過去に外国語活動を指導した経験のある教員」(53.5%)
- 「校内研究会・研修会の実施体制」(53.2%)
- 「校内研修を企画・運営できる教員」(52.5%)
- 「外国語活動の指導法について相談できる人」(51.4%)

これらの項目のうち、「過去に外国語活動を指導した経験のある教員」は10ポイント程度、「外国語活動の指導法について相談できる人」は5ポイント程度前年度よりも高くなっているが、他の項目はやや低くなっている。

⑤「十分に整っている」「ある程度整っている」の合計と「まったく整っていない」「あまり整っていない」の合計がどちらも40%台で、ほぼ拮抗しているもの

- 「教師が使用する教具を購入する費用」…整っている(48.0%) > 整っていない(47.3%)
- 「学校外での研修会・勉強会などの情報」…整っている(47.7%) < 整っていない(47.8%)
- 「英語の文法・表現・発音等について相談できる人」…整っている(46.2%) < 整っていない(49.7%)

上記項目のうち、「教師が使用する教具を購入する費用」「英語の文法・表現・発音等について相談できる人」は前年度の⑥の分類から⑤の分類に上がり、整っていない割合が前者で3ポイント、後者で1ポイント下がった。分類が変わらなかった「学校外での研修会・勉強会などの情報」は整っていない割合が約3ポイント上がり、整っている割合が1.5ポイント下がり改善が見られなかった。

⑥「まったく整っていない」「あまり整っていない」の合計が50%をこえるもの

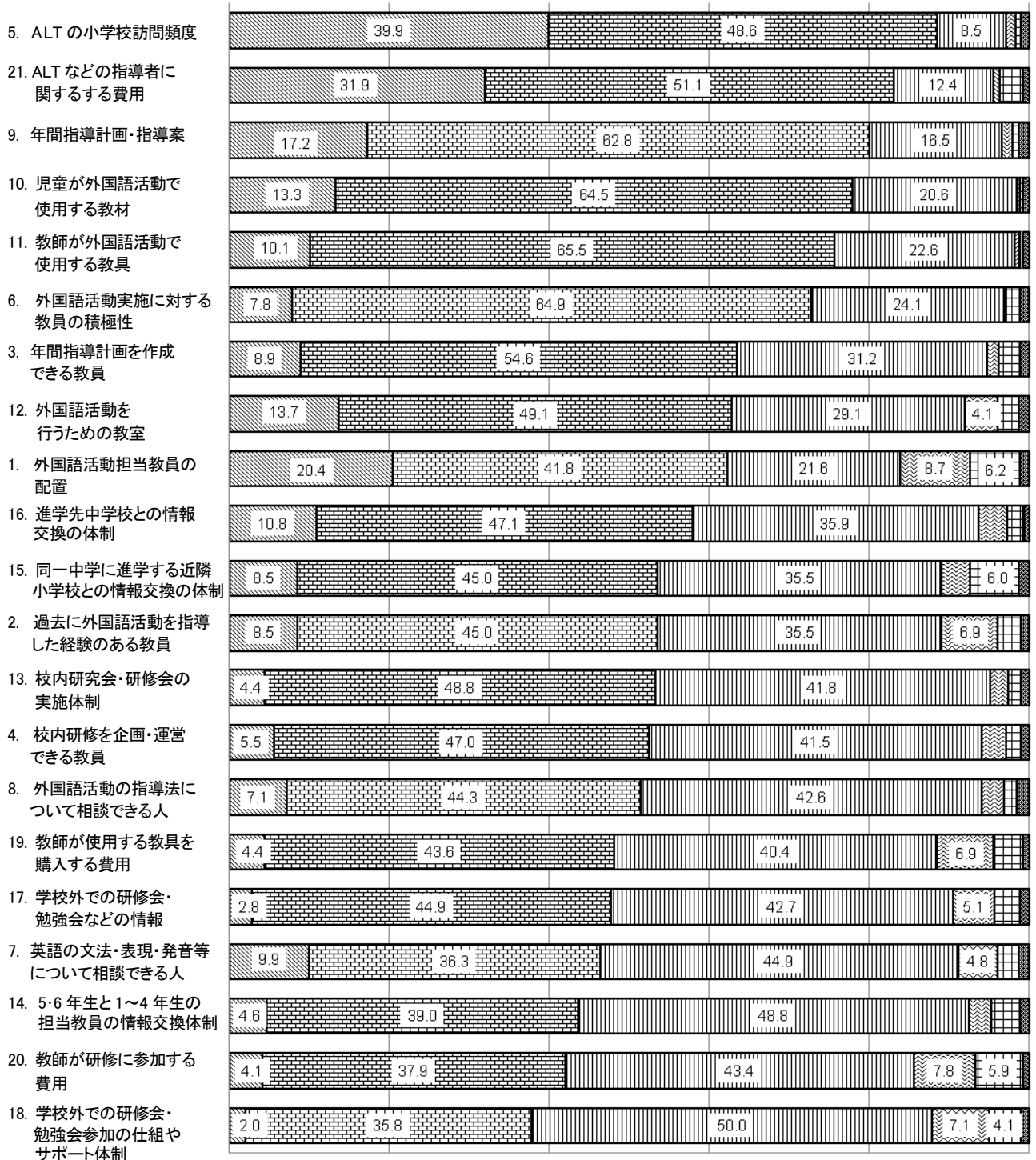
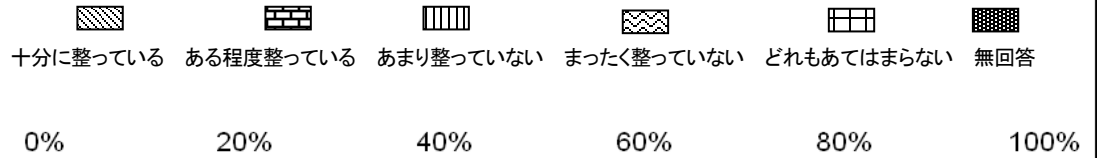
- 「学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制」(57.1%)
- 「5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制」(51.6%)
- 「教師が研修に参加する費用」(51.2%)

前年度の整っていない割合の数値は、「学校外での研修会・勉強会参加の仕組みやサポート体制」が54.7%、「教師が研修に参加する費用」が51.7%で、分類は変わらなかった。「5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制」は、前年度は整っている割合と整っていない割合が拮抗していたが、今回は整っていない割合が前年度の46.4%から5割を超えるレベルに上がった。

以上を概観すると、管轄下の小学校の外国語活動実施に際しての環境の整備状況については、教室や教材、教具、指導教員の整備は進んでいるが、教員が活動をするにあたってのサポート面、費用面で不十分さが残っているといえるだろう。

<降順：「十分に整っている+ある程度整っている」の回答の多い順>

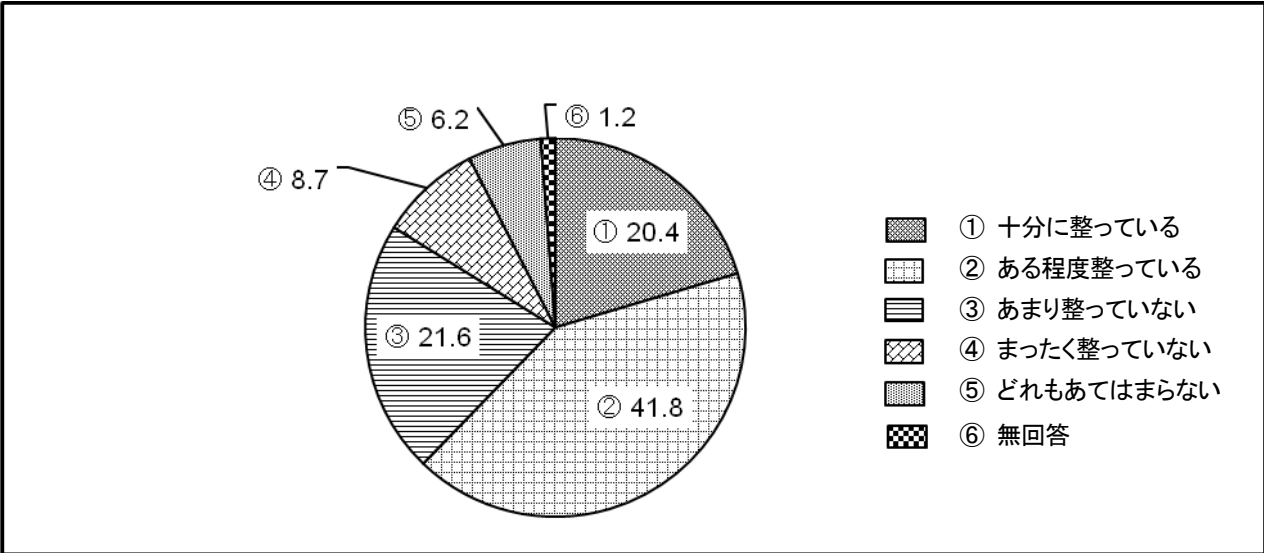
問6 管轄下の小学校全体で考えた場合、年間35時間の外国語活動を実施するにあたり、以下の面で環境は整っていると思いますか



項 目	十分に 整って いる	ある程度 整って いる	あまり 整って いない	まったく 整って いない	どれも あてはま らない	無回答
5. ALT の小学校訪問頻度	39.9%	48.6%	8.5%	1.2%	0.7%	1.1%
21. ALT などの指導者に関する 費用	31.9%	51.1%	12.4%	0.9%	2.8%	0.9%
9. 年間指導計画・指導案	17.2%	62.8%	16.5%	1.4%	0.7%	1.4%
10. 児童が外国語活動で使用する教材	13.3%	64.5%	20.6%	0.4%	0.4%	0.9%
11. 教師が外国語活動で使用する 教具	10.1%	65.5%	22.6%	0.5%	0.4%	0.9%
6. 外国語活動実施に対する 教員の積極性	7.8%	64.9%	24.1%	0.2%	1.8%	1.2%
3. 年間指導計画を作成できる教員	8.9%	54.6%	31.2%	1.4%	2.7%	1.2%
12. 外国語活動を行うための教室	13.7%	49.1%	29.1%	4.1%	2.7%	1.4%
1. 外国語活動担当教員の配置	20.4%	41.8%	21.6%	8.7%	6.2%	1.2%
16. 進学先中学校との情報交換の体制	10.8%	47.1%	35.9%	3.6%	2.0%	0.7%
15. 同一中学に進学する近隣小学校 との小学校との情報交換の体制	8.5%	45.0%	35.5%	3.5%	6.0%	1.4%
2. 過去に外国語活動を指導した 経験のある教員	8.5%	45.0%	35.5%	6.9%	3.0%	1.1%
13. 校内研究会・研修会の実施体制	4.4%	48.8%	41.8%	2.3%	1.6%	1.1%
4. 校内研修を企画・運営できる 教員	5.5%	47.0%	41.5%	3.0%	2.0%	1.1%
8. 外国語活動の指導法について 相談できる人	7.1%	44.3%	42.6%	2.8%	1.6%	1.6%
19. 教師が使用する教具を 購入する費用	4.4%	43.6%	40.4%	6.9%	3.7%	0.9%
17. 学校外での研修会・勉強会 などの情報	2.8%	44.9%	42.7%	5.1%	3.2%	1.2%
7. 英語の文法・表現・発音等に ついて相談できる人	9.9%	36.3%	44.9%	4.8%	2.7%	1.4%
14. 5・6年生と1～4年生の担当 教員の情報交換体制	4.6%	39.0%	48.8%	2.8%	3.5%	1.2%
20. 教師が研修に参加する費用	4.1%	37.9%	43.4%	7.8%	5.9%	0.9%
18. 学校外での研修会・勉強会 参加の仕組やサポート体制	2.0%	35.8%	50.0%	7.1%	4.1%	1.1%

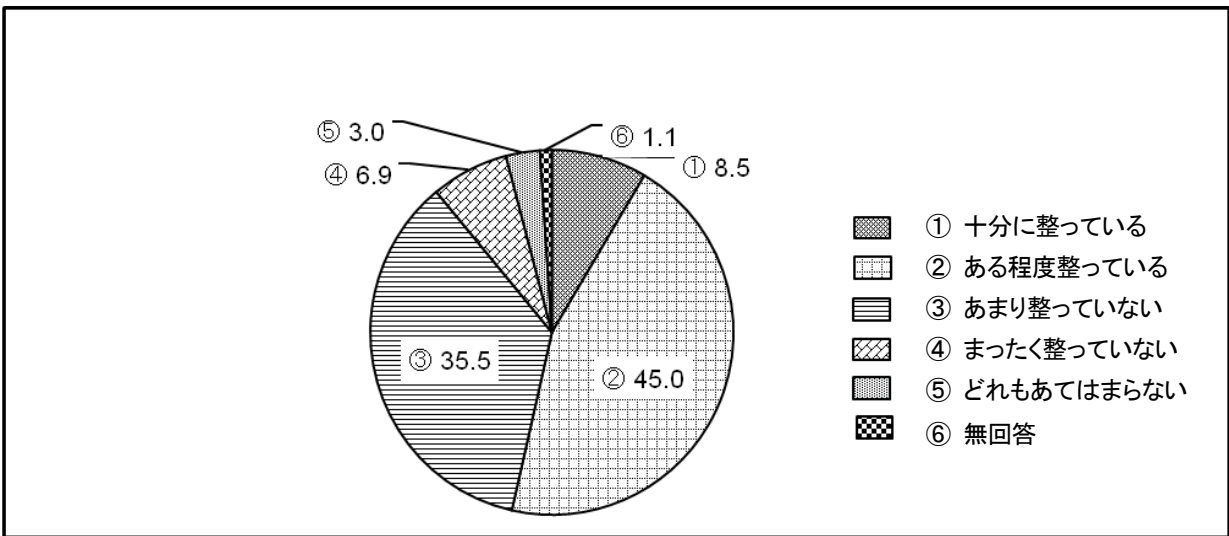
問 6-1 外国語活動担当教員の配置

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	115	20.4%
② ある程度整っている	236	41.8%
③ あまり整っていない	122	21.6%
④ まったく整っていない	49	8.7%
⑤ どれもあてはまらない	35	6.2%
⑥ 無回答	7	1.2%



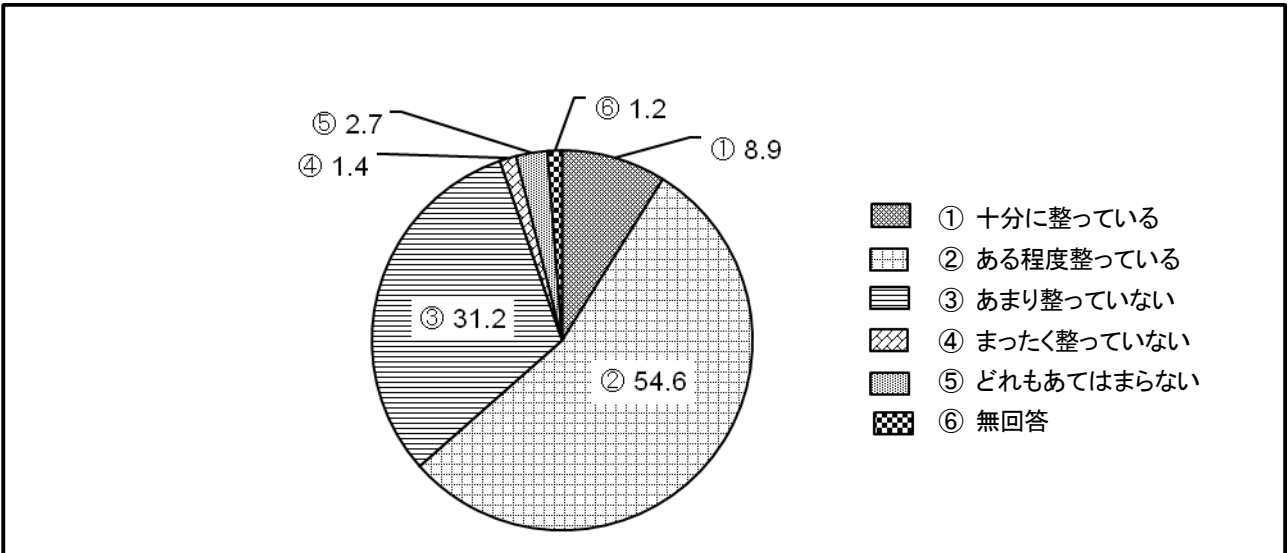
問 6-2 過去に外国語活動を指導した経験のある教員

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	48	8.5%
② ある程度整っている	254	45.0%
③ あまり整っていない	200	35.5%
④ まったく整っていない	39	6.9%
⑤ どれもあてはまらない	17	3.0%
⑥ 無回答	6	1.1%



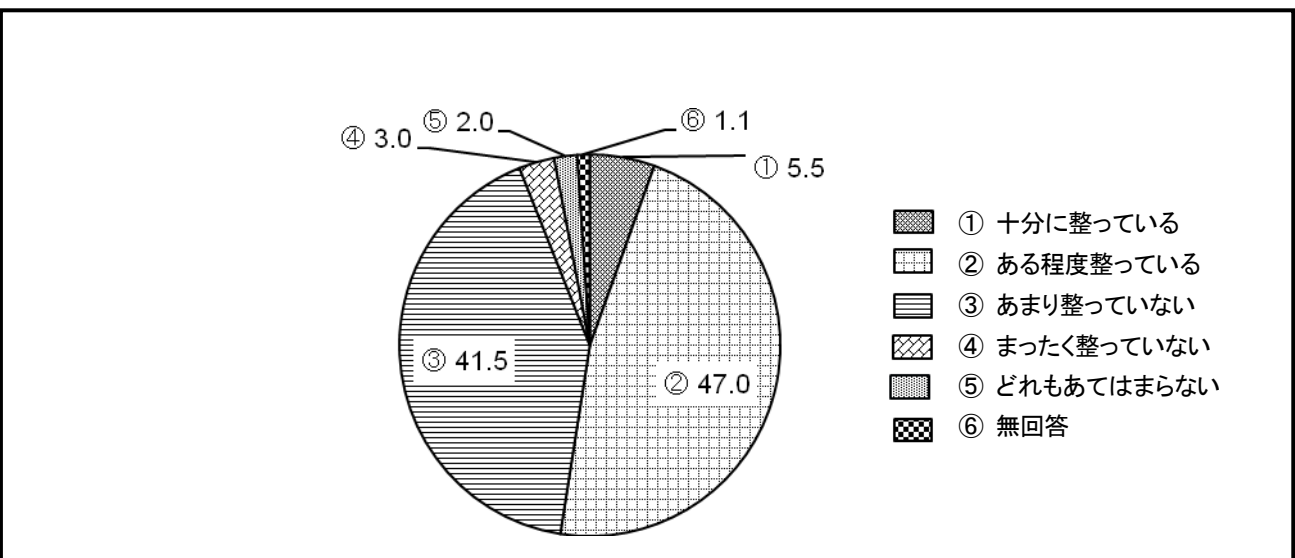
問 6-3 年間指導計画を作成できる教員

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	50	8.9%
② ある程度整っている	308	54.6%
③ あまり整っていない	176	31.2%
④ まったく整っていない	8	1.4%
⑤ どれもあてはまらない	15	2.7%
⑥ 無回答	7	1.2%



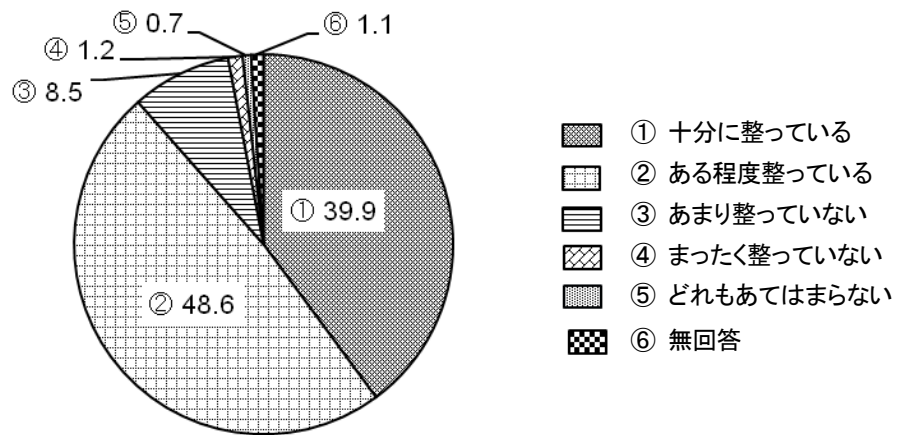
問 6-4 校内研修を企画・運営できる教員

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	31	5.5%
② ある程度整っている	265	47.0%
③ あまり整っていない	234	41.5%
④ まったく整っていない	17	3.0%
⑤ どれもあてはまらない	11	2.0%
⑥ 無回答	6	1.1%



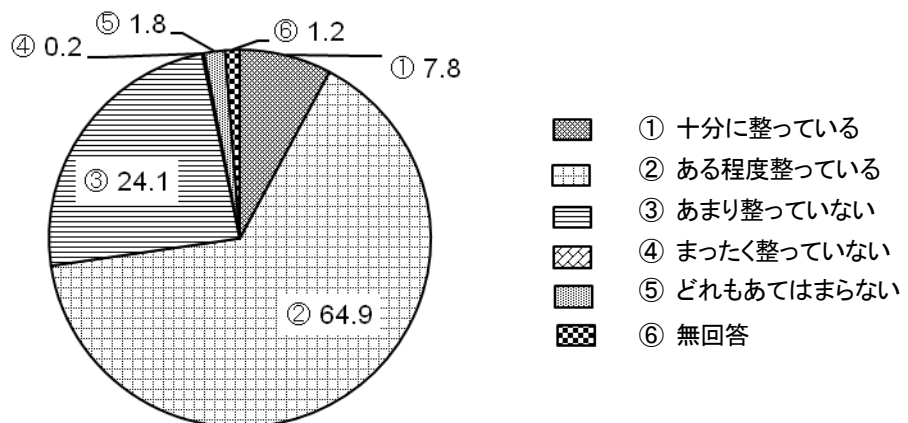
問 6-5 ALT の小学校訪問頻度

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	225	39.9%
② ある程度整っている	274	48.6%
③ あまり整っていない	48	8.5%
④ まったく整っていない	7	1.2%
⑤ どれもあてはまらない	4	0.7%
⑥ 無回答	6	1.1%



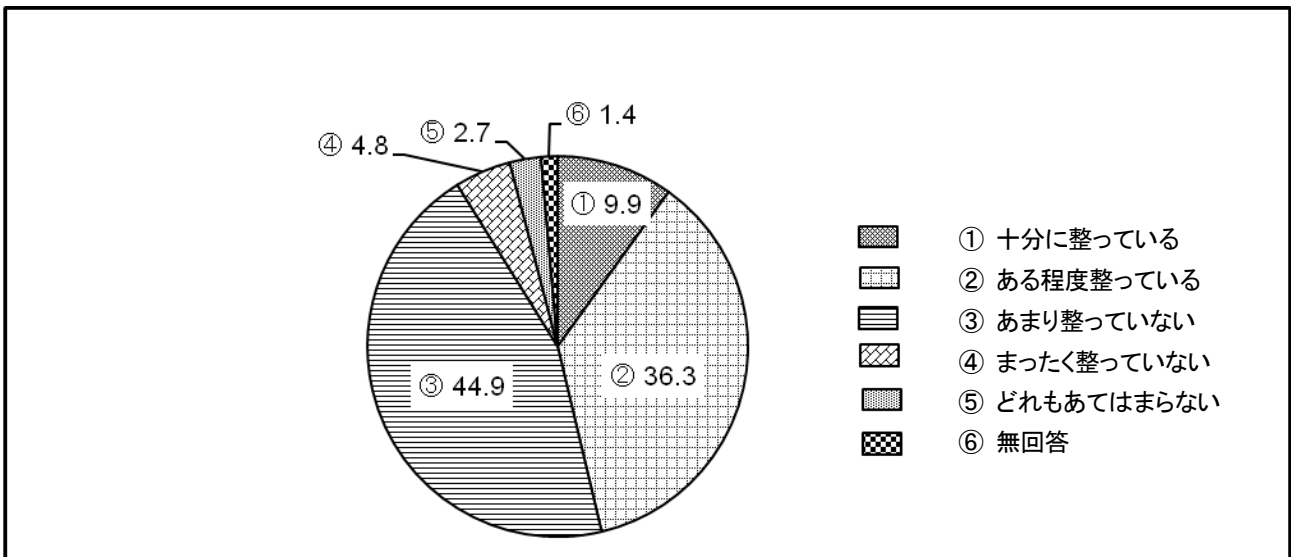
問 6-6 外国語活動実施に対する教員の積極性

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	44	7.8%
② ある程度整っている	366	64.9%
③ あまり整っていない	136	24.1%
④ まったく整っていない	1	0.2%
⑤ どれもあてはまらない	10	1.8%
⑥ 無回答	7	1.2%



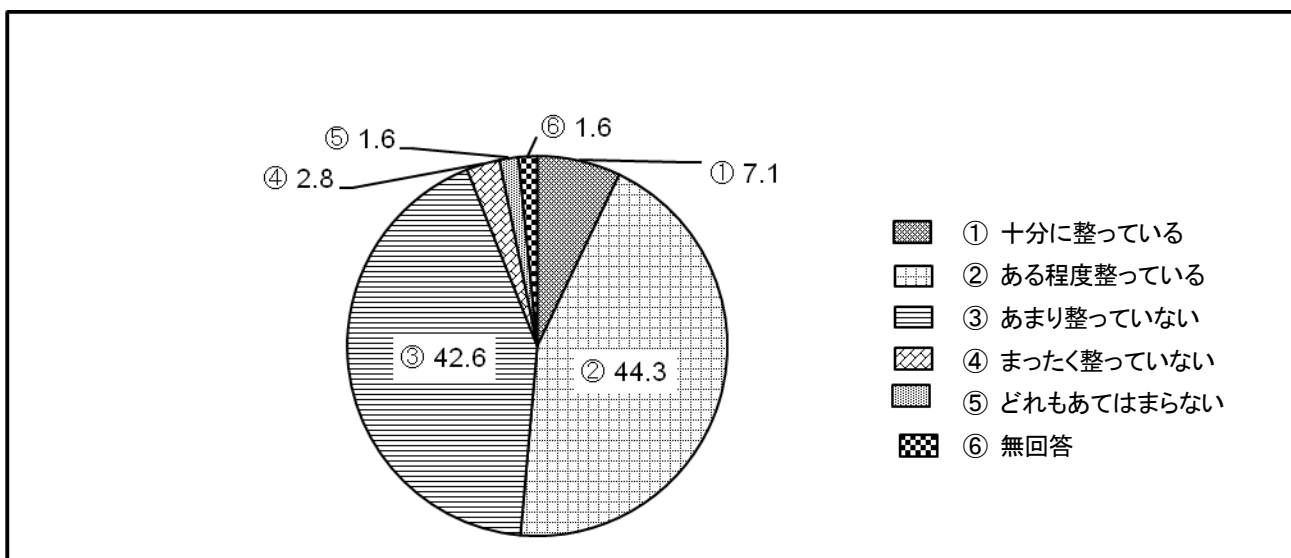
問 6-7 英語の文法・表現・発音等について相談できる人

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	56	9.9%
② ある程度整っている	205	36.3%
③ あまり整っていない	253	44.9%
④ まったく整っていない	27	4.8%
⑤ どれもあてはまらない	15	2.7%
⑥ 無回答	8	1.4%



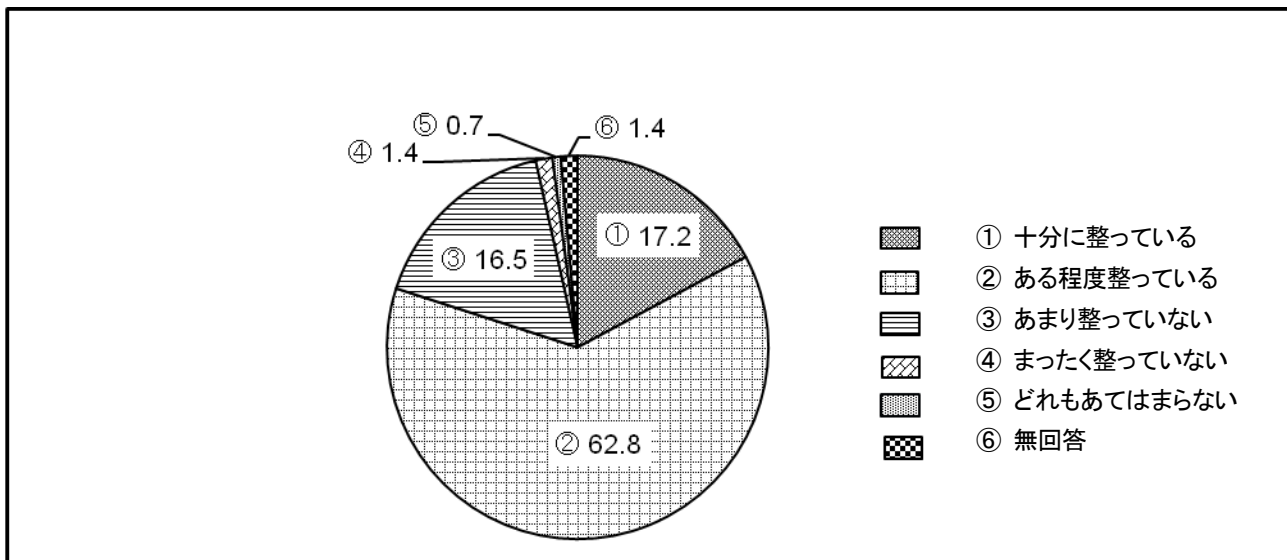
問 6-8 外国語活動の指導法について相談できる人

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	40	7.1%
② ある程度整っている	250	44.3%
③ あまり整っていない	240	42.6%
④ まったく整っていない	16	2.8%
⑤ どれもあてはまらない	9	1.6%
⑥ 無回答	9	1.6%



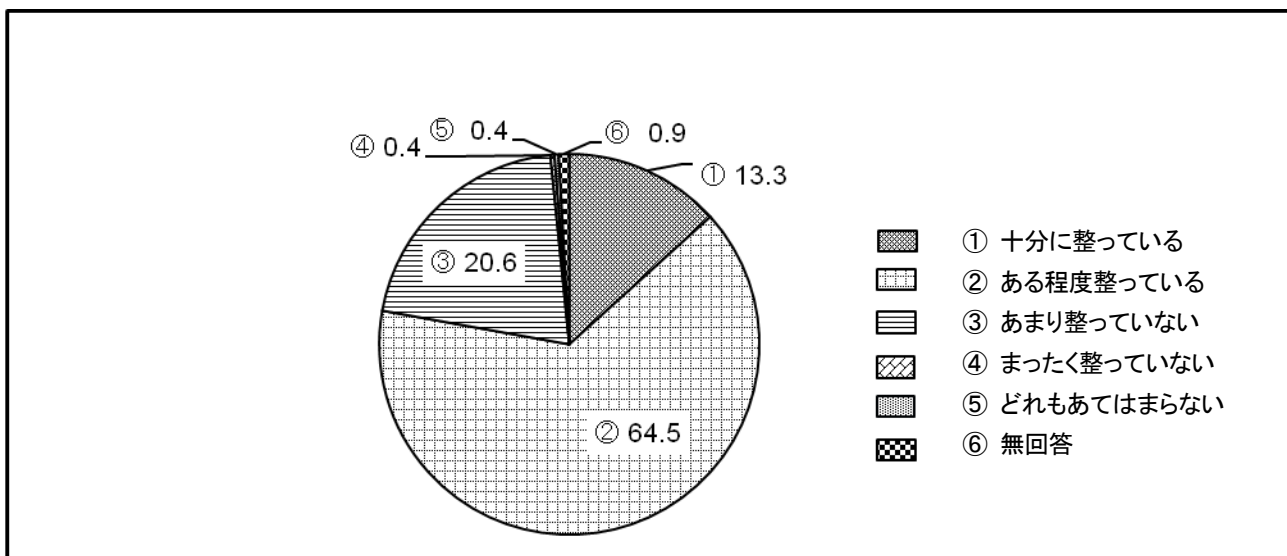
問 6-9 年間指導計画・指導案

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	97	17.2%
② ある程度整っている	354	62.8%
③ あまり整っていない	93	16.5%
④ まったく整っていない	8	1.4%
⑤ どれもあてはまらない	4	0.7%
⑥ 無回答	8	1.4%



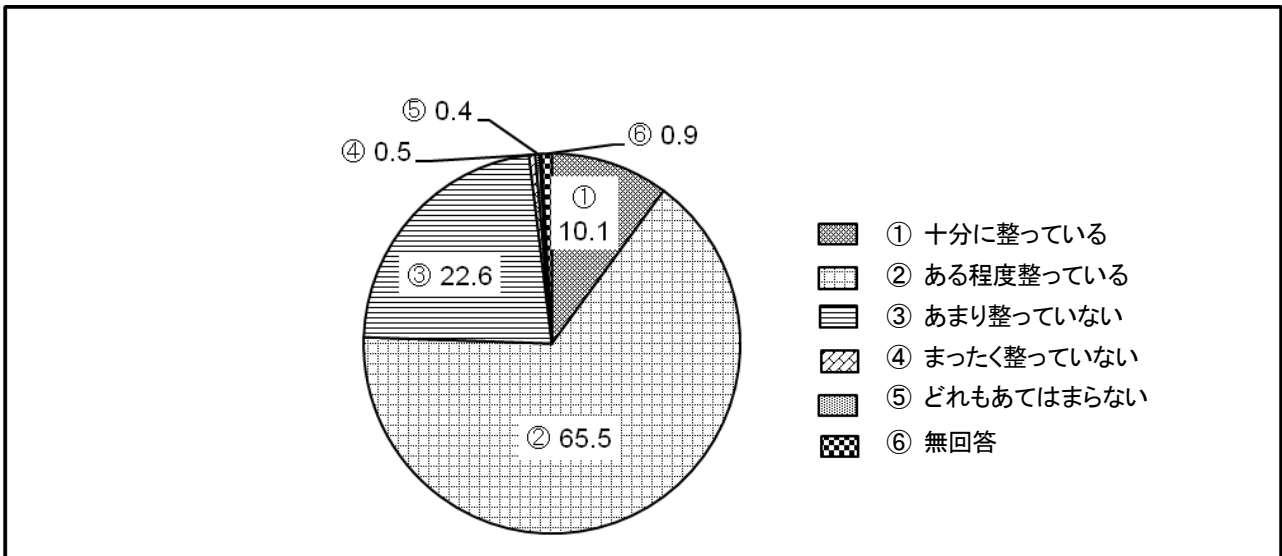
問 6-10 児童が外国語活動で使用する教材

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	75	13.3%
② ある程度整っている	364	64.5%
③ あまり整っていない	116	20.6%
④ まったく整っていない	2	0.4%
⑤ どれもあてはまらない	2	0.4%
⑥ 無回答	5	0.9%



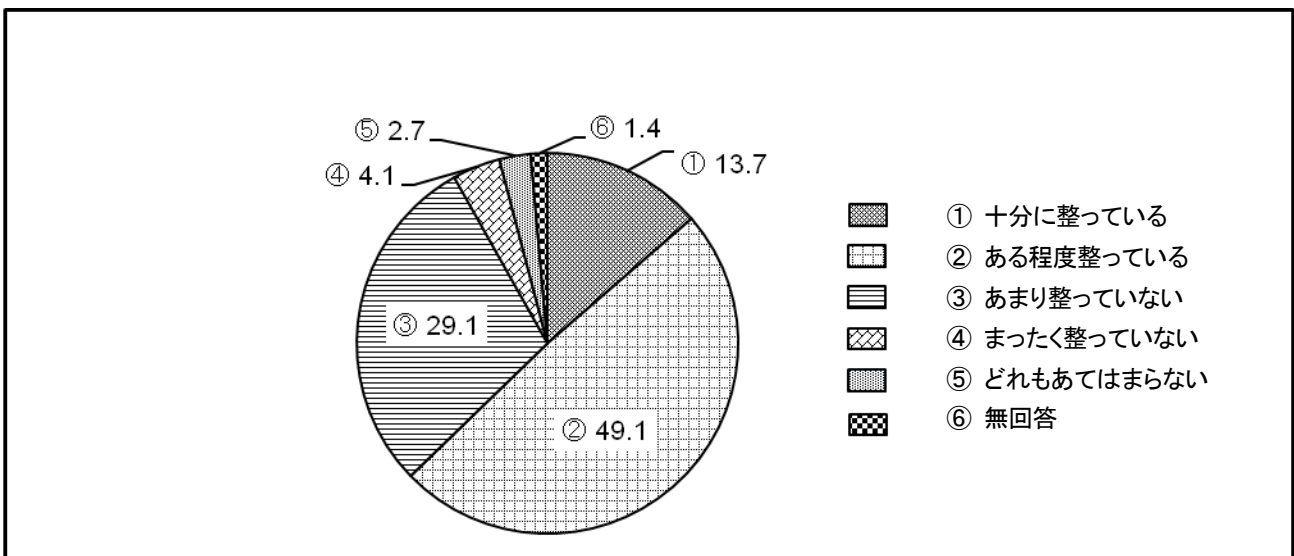
問 6-11 教師が外国語活動で使用する教具

選 択 肢	回答数	N=563
① 十分に整っている	57	10.1%
② ある程度整っている	369	65.5%
③ あまり整っていない	127	22.6%
④ まったく整っていない	3	0.5%
⑤ どれもあてはまらない	2	0.4%
⑥ 無回答	5	0.9%



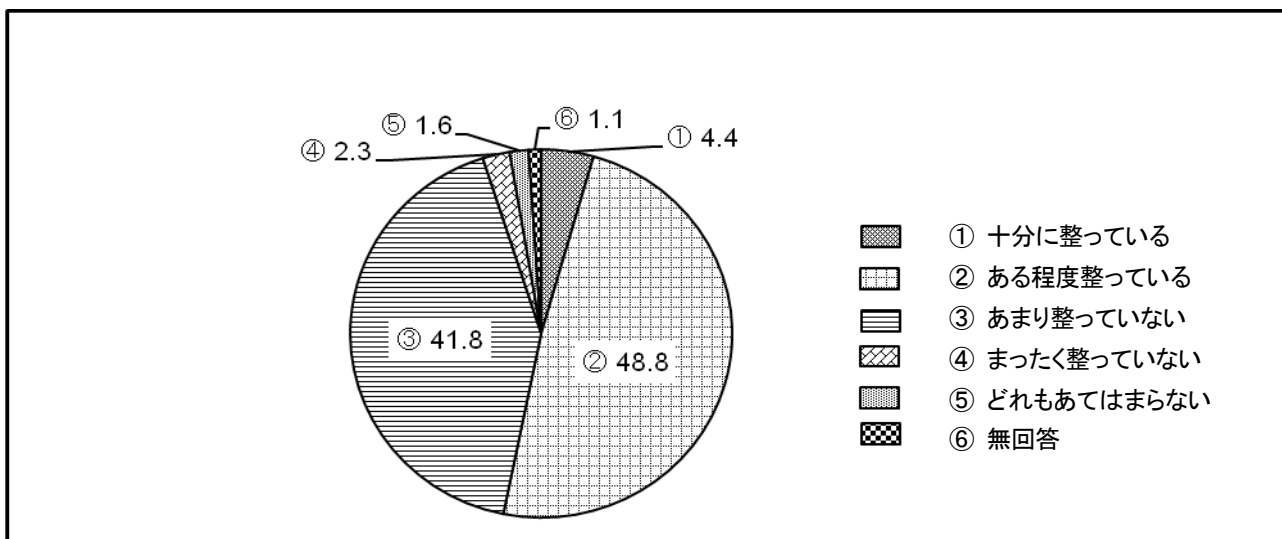
問 6-12 外国語活動を行うための教室

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	77	13.7%
② ある程度整っている	277	49.1%
③ あまり整っていない	164	29.1%
④ まったく整っていない	23	4.1%
⑤ どれもあてはまらない	15	2.7%
⑥ 無回答	8	1.4%



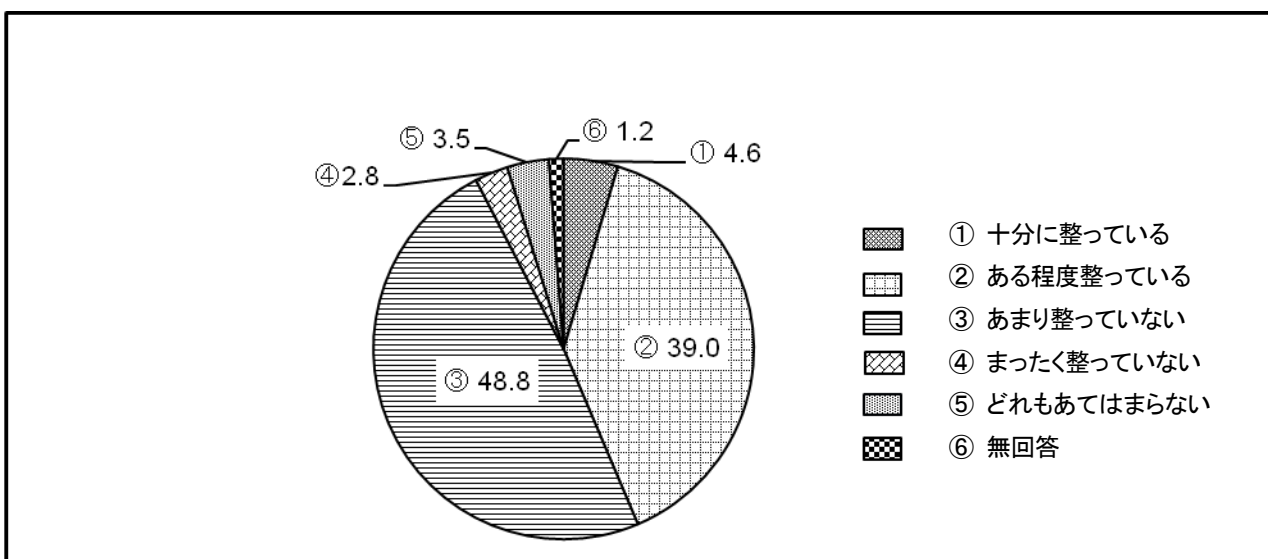
問 6-13 校内研究会・研修会の実施体制

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	25	4.4%
② ある程度整っている	275	48.8%
③ あまり整っていない	236	41.8%
④ まったく整っていない	13	2.3%
⑤ どれもあてはまらない	9	1.6%
⑥ 無回答	6	1.1%



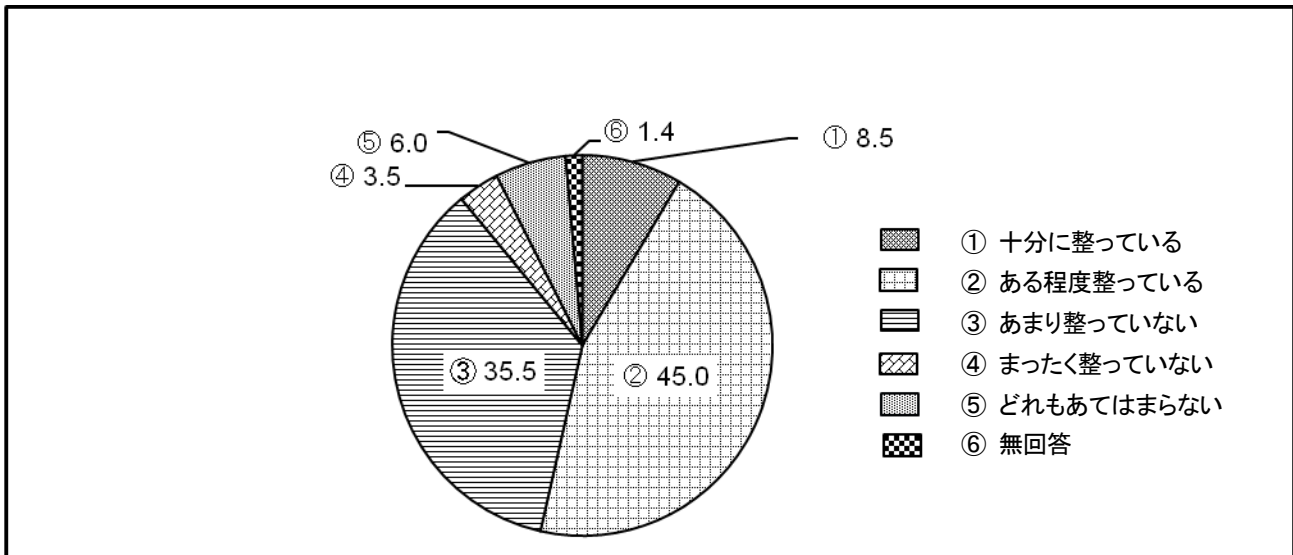
問 6-14 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	26	4.6%
② ある程度整っている	220	39.0%
③ あまり整っていない	275	48.8%
④ まったく整っていない	16	2.8%
⑤ どれもあてはまらない	20	3.5%
⑥ 無回答	7	1.2%



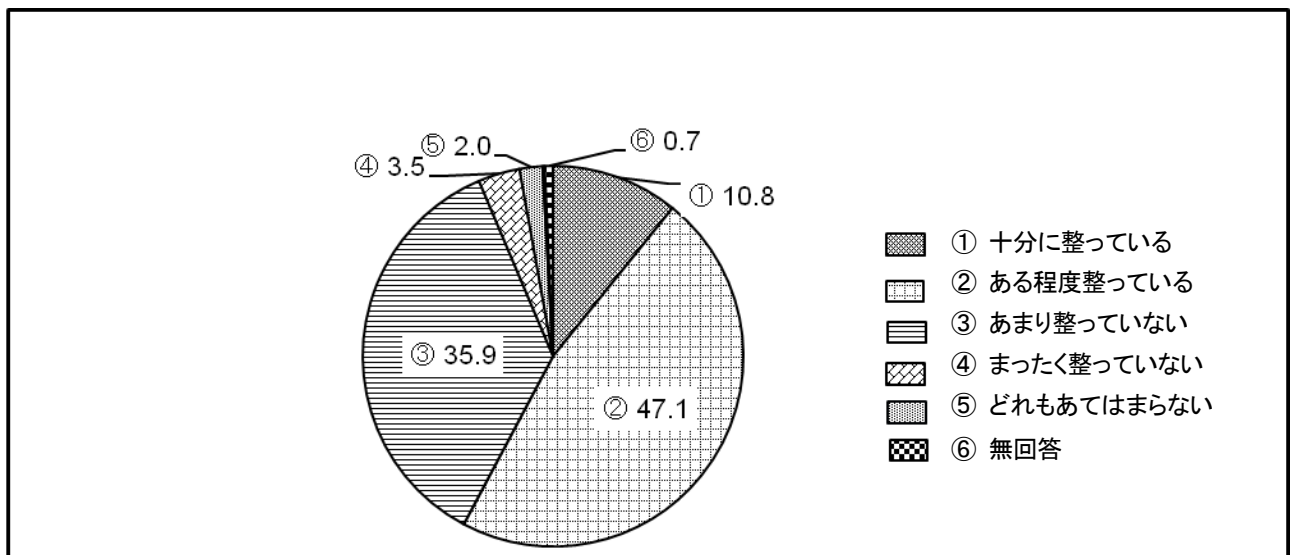
問 6-15 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	48	8.5%
② ある程度整っている	254	45.0%
③ あまり整っていない	200	35.5%
④ まったく整っていない	20	3.5%
⑤ どれもあてはまらない	34	6.0%
⑥ 無回答	8	1.4%



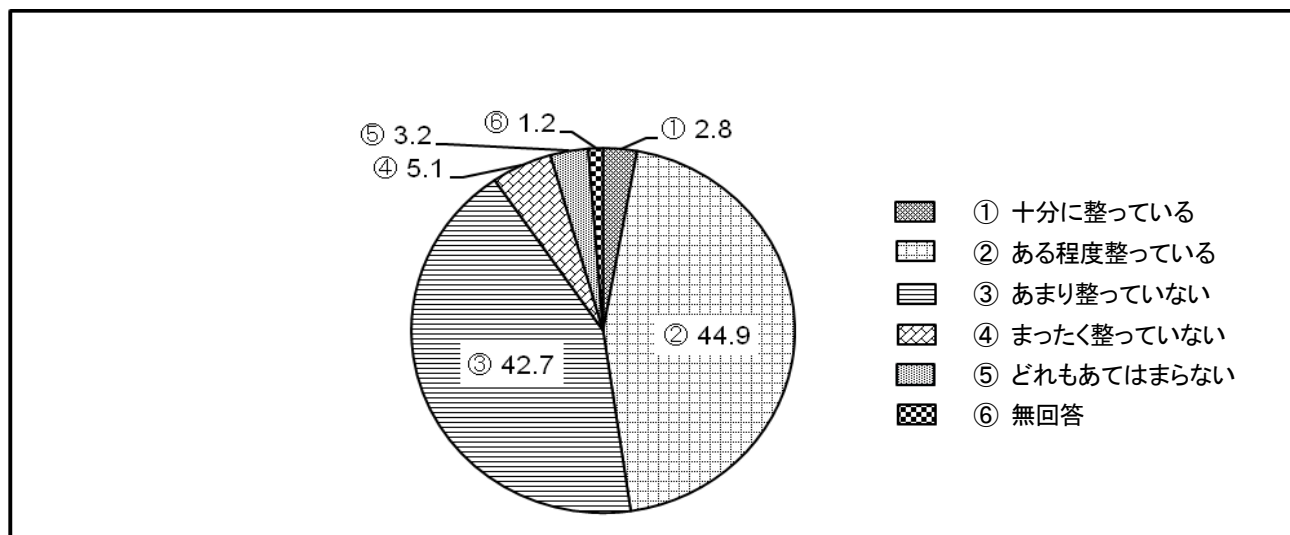
問 6-16 進学先中学校との情報交換の体制

選 択 肢	回答数	N=563
① 十分に整っている	61	10.8%
② ある程度整っている	265	47.1%
③ あまり整っていない	202	35.9%
④ まったく整っていない	20	3.5%
⑤ どれもあてはまらない	11	2.0%
⑥ 無回答	4	0.7%

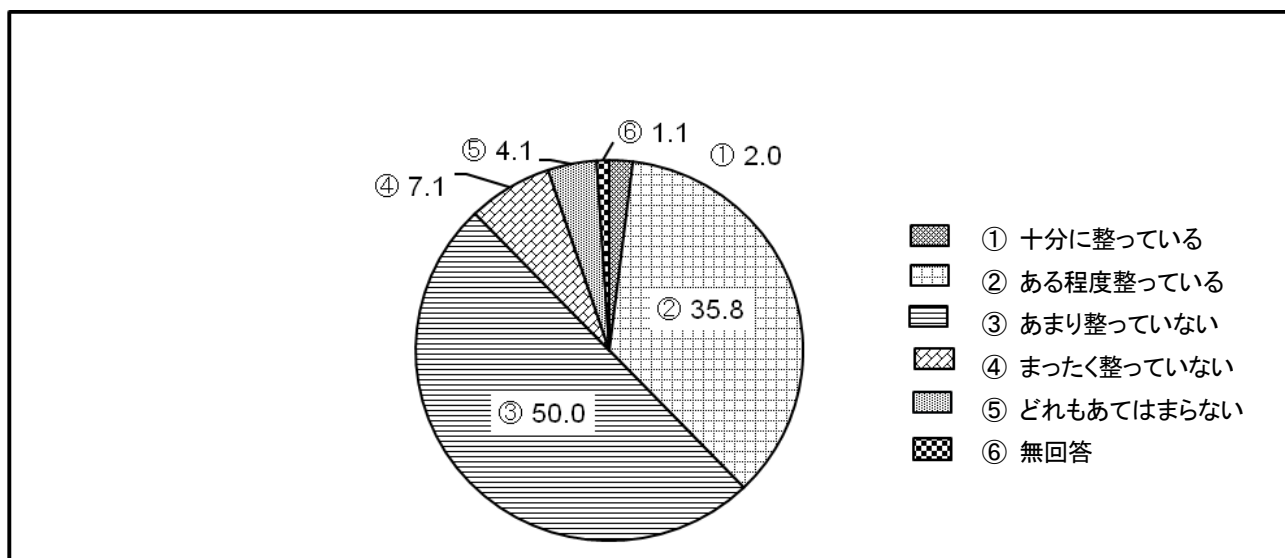


問 6-17 学校外での研修会・勉強会などの情報

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	16	2.8%
② ある程度整っている	253	44.9%
③ あまり整っていない	241	42.7%
④ まったく整っていない	29	5.1%
⑤ どれもあてはまらない	18	3.2%
⑥ 無回答	7	1.2%

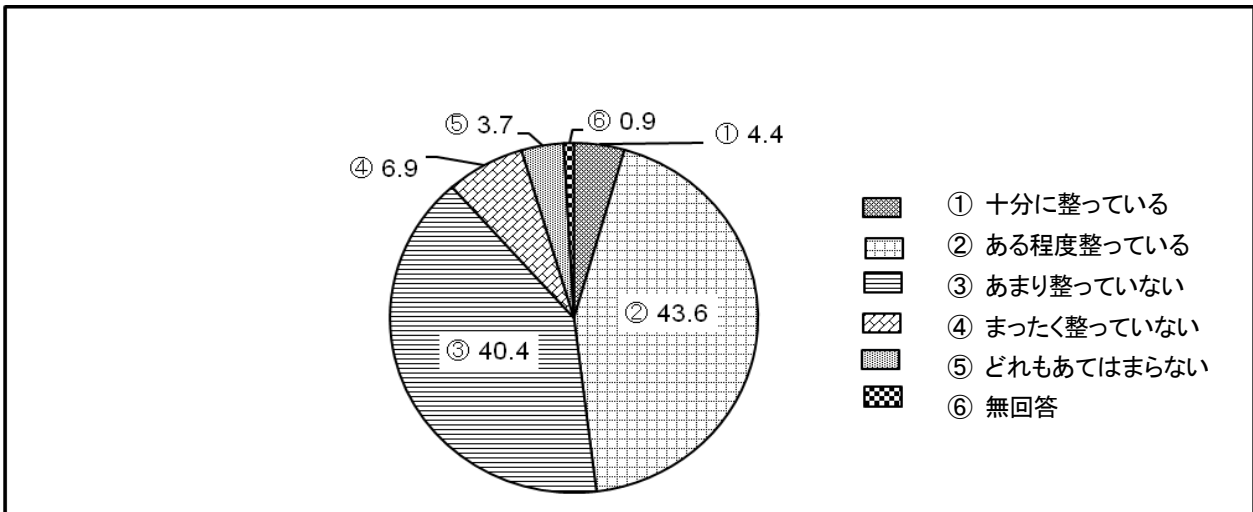


問 6-18 学校外での研修会・勉強会参加の仕組やサポート体制



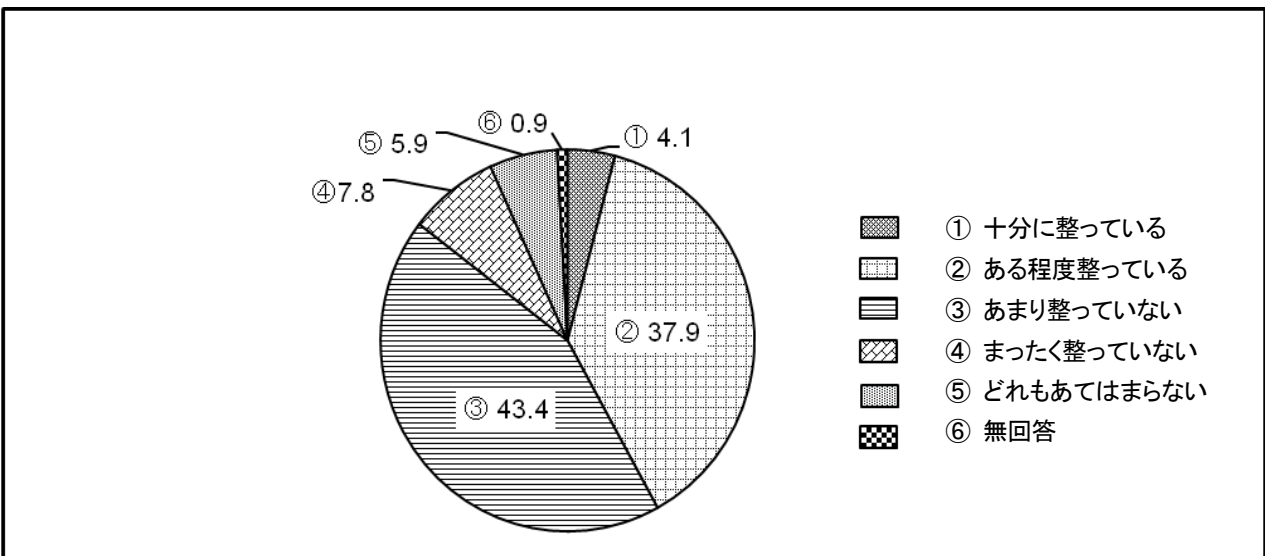
問 6-19 教師が使用する教具を購入する費用

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	25	4.4%
② ある程度整っている	246	43.6%
③ あまり整っていない	228	40.4%
④ まったく整っていない	39	6.9%
⑤ どれもあてはまらない	21	3.7%
⑥ 無回答	5	0.9%



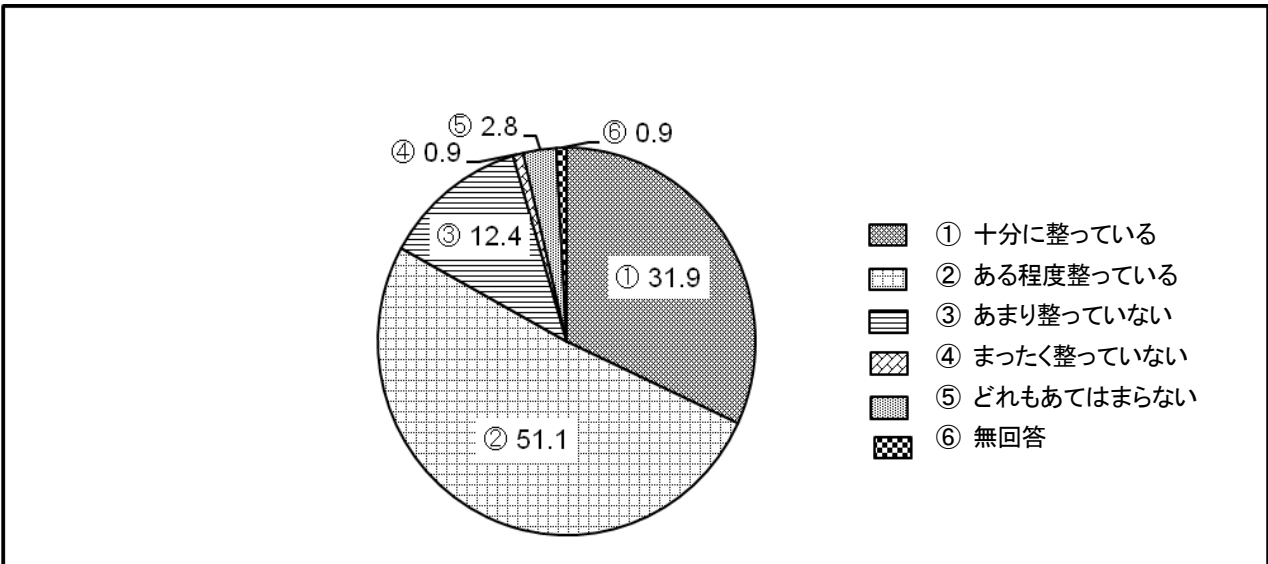
問 6-20 教師が研修に参加する費用

選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	23	4.1%
② ある程度整っている	214	37.9%
③ あまり整っていない	245	43.4%
④ まったく整っていない	44	7.8%
⑤ どれもあてはまらない	33	5.9%
⑥ 無回答	5	0.9%



問 6-21 ALT などの指導者に関する費用

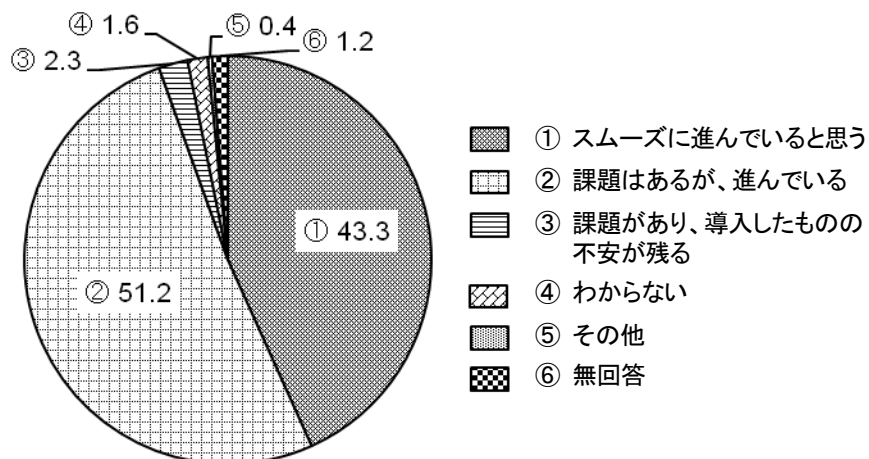
選 択 肢	回答数	N=564
① 十分に整っている	180	31.9%
② ある程度整っている	288	51.1%
③ あまり整っていない	70	12.4%
④ まったく整っていない	5	0.9%
⑤ どれもあてはまらない	16	2.8%
⑥ 無回答	5	0.9%



問7 2011年度の外国語活動必修化導入後、管轄下の小学校では、5・6年生での年間35時間の外国語活動がスムーズに進んでいると思いますか。あてはまるもの1つを選んでください。

2011年度に外国語活動が必修化されたが、管轄下の小学校で導入がスムーズに進んでいるかどうかについての質問に対する回答は、「課題はあるが、進んでいる」(51.2%)がもっとも多く、次いで「スムーズに進んでいると思う」(43.3%)の順だった。前年度の導入前の質問で、「スムーズに導入できると思う」という回答が56%と半数を超えており、「課題はあるが、導入の見通しは立っている」は35.0%と低かったのに対して、導入後は取り組みの中で課題が見えてきた面があることがうかがえる。いずれにしても2つの回答を合計した「進んでいる」という回答は9割を超えており、まずは順調にスタートしたと言っていだろう。

問7 2011年度の外国語活動必修化導入後、管轄下の小学校では、5・6年生での年間35時間の外国語活動がスムーズに進んでいると思いますか

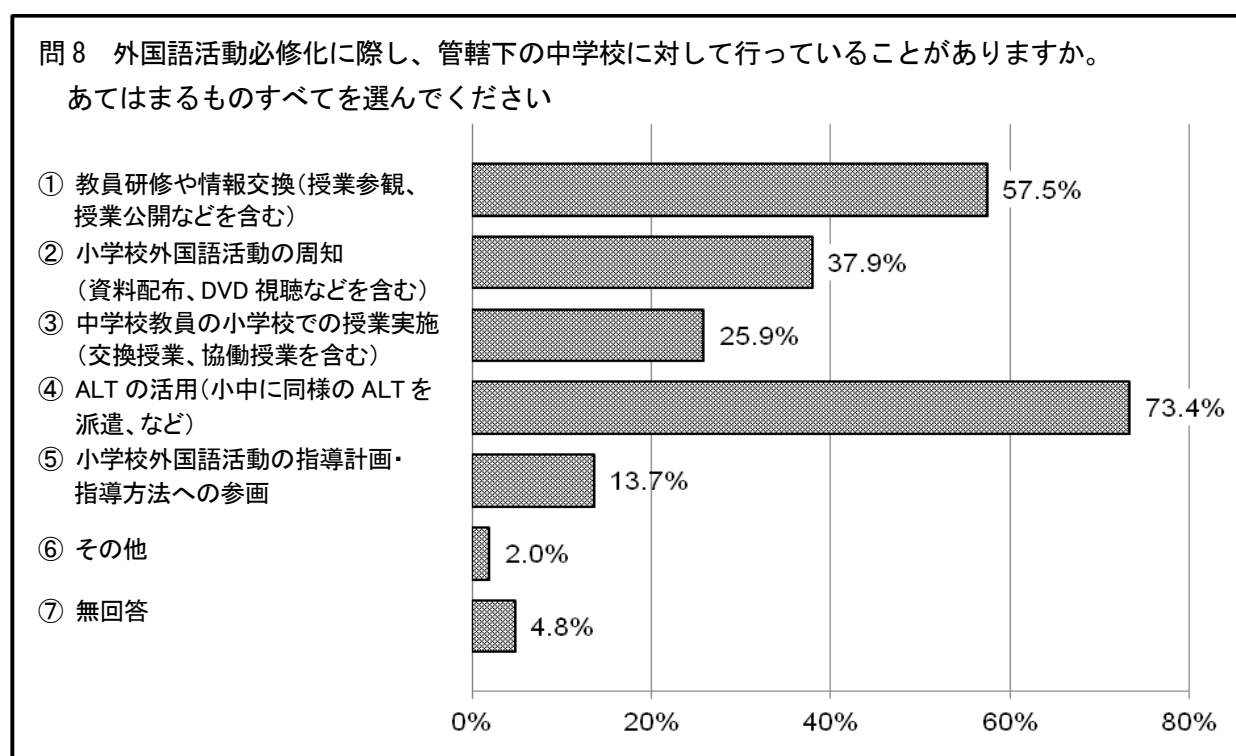


問8 外国語活動必修化に際し、管轄下の中学校に対して行っていることがありますか。

あてはまるものすべてを選んでください。

小学校における外国語活動が必修化されたことに伴い、管轄下の中学校に対する取り組みとして、7割以上の教育委員会が「ALTの活用(小中に同様のALTを派遣、など)」(73.4%)を、6割近い教育委員会が「教員研修や情報交換(授業参観、授業公開などを含む)」(57.5%)を行っている。

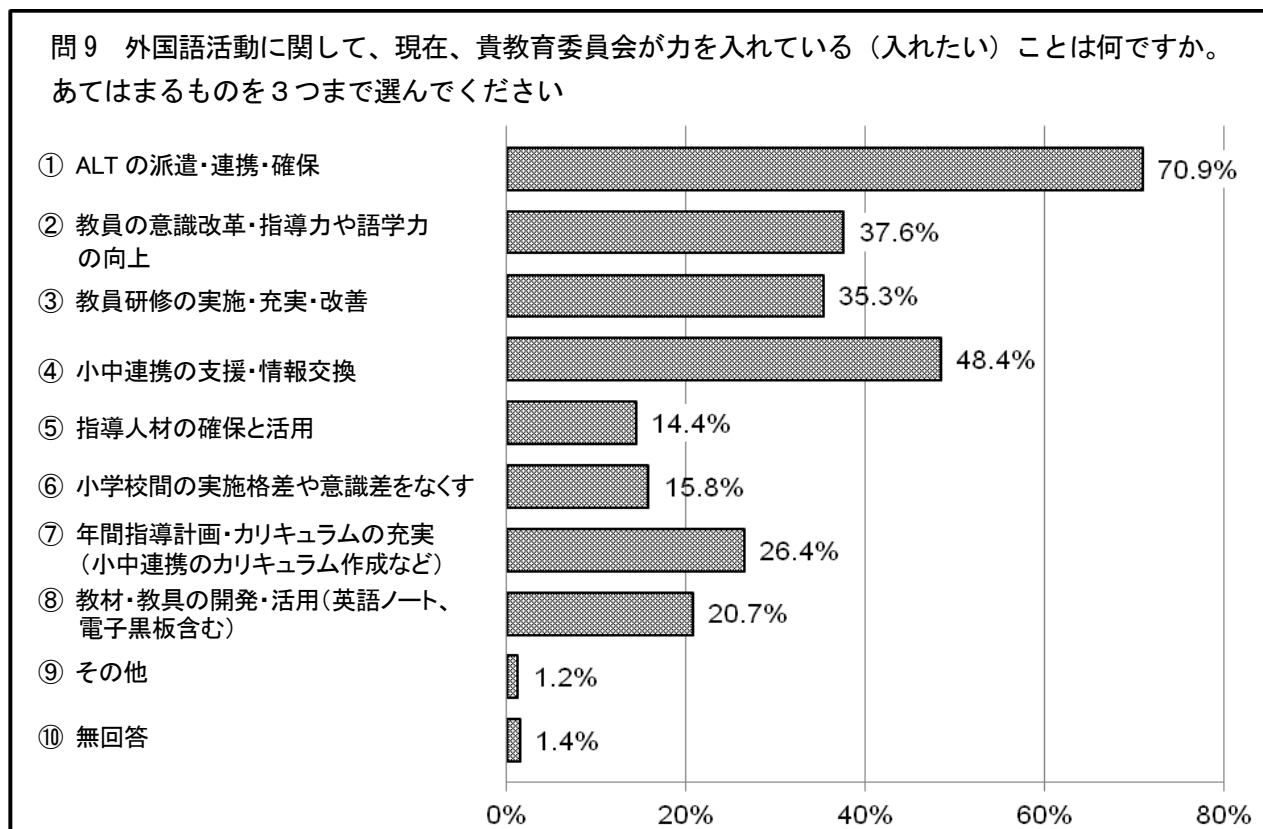
また、中学校に対して、3分の1を超える割合で「小学校外国語活動の周知(資料配布、DVD視聴などを含む)」(37.9%)が、4分の1を超える割合で「中学校教員の小学校での授業実施(交換授業、協働授業を含む)」(25.9%)が行われていることがわかった。「その他」でも「小中合同の英語研究会の開催」などの活動が報告されている。なお、「無回答」が4.8%と他の質問項目に比べて高い数値を示しているが、これは中学校に対する活動を行っていない教育委員会を含むので、活動のない教育委員会は5%未満であると考えられる。本設問は複数回答可であり、1教育委員会あたりの選択回答数は2.2項目であった。



問9 外国語活動に関して、現在、貴教育委員会が力を入れている（入りたい）ことは何ですか。
あてはまるものを3つまで選んでください。

小学校への外国語活動導入初年度にあたり、教育委員会がもっとも力を入れている（入りたい）項目は「ALTの派遣・連携・確保」（70.9%）が圧倒的に多かった。あとの項目としては「小中連携の支援・情報交換」（48.4%）、「教員の意識改革・指導力や語学力の向上」（37.6%）、「教員研修の実施・充実・改善」（35.3%）「年間指導計画・カリキュラムの充実（小中連携のカリキュラム作成など）」（26.4%）の順だった。

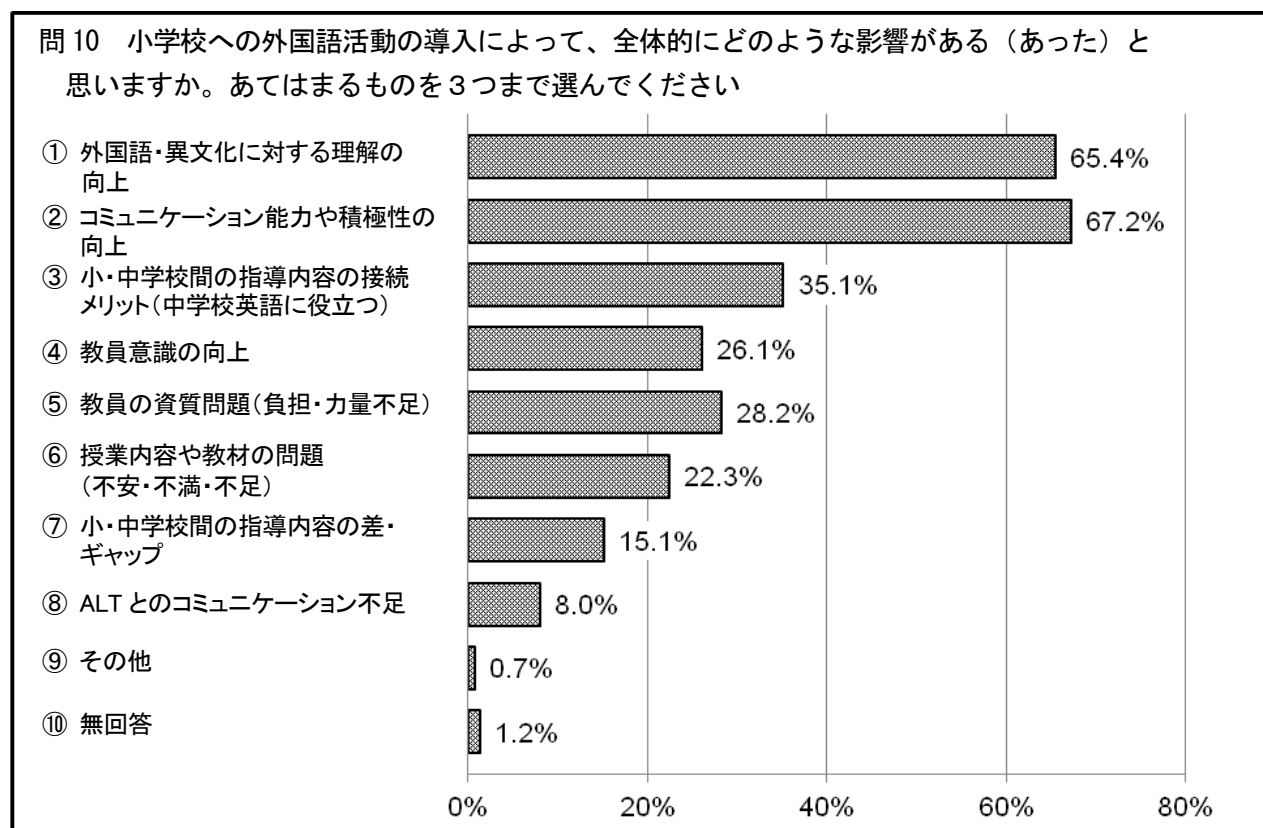
本設問における選択数は3つ以内だが、1教育委員会あたりの平均回答数は2.7項目であった。



**問 10 小学校への外国語活動の導入によって、全体的にどのような影響がある（あった）と
思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。**

外国語活動導入による影響として教育委員会が答えた項目で多かったのが「コミュニケーション能力や積極性の向上」(67.2%)と「外国語・異文化に対する理解の向上」(65.4%)の2つで、いずれも65%を超えた。これらはいずれも活動によって得られた成果であり、プラス面であるといえる。

それに続くのが「小・中学校間の指導内容の接続メリット(中学校英語に役立つ)」(35.1%)、「教員意識の向上」(26.1%)で、これもプラス面になるが、影響力はやや低いと見られているようだ。一方、「教員の資質問題(負担・力量不足)」(28.2%)は不十分な面で、今後の課題のトップに挙げられている。



～ 本件に関するお問い合わせ先 ～

財団法人日本英語検定協会 英語教育研究センター

担当: 小笠原 t-ogasahara@eiken.or.jp

/ 染谷 y-someya@eiken.or.jp

TEL: 03-3266-6706 FAX: 03-3266-6704